

平成20年度 財団法人横浜市青少年育成協会 事業報告

平成20年度は、青少年の健全育成や放課後児童育成推進（放課後キッズクラブ）の他、自立支援をはじめとする青少年の社会的な課題等を、指定管理者として管理・運営する青少年交流センター等の青少年4施設を拠点として、地域や企業、関係機関・団体と協働・連携し取り組んできました。

また、横浜市の特定協約団体としての目標達成、新法人への移行のための更なる組織強化に重点的に取り組むとともに、自主財源の確保、PDCAサイクルの充実等、『組織・人事給与検討委員会の提言（H18）』に基づく団体の自主・自立的経営の促進に努めました。

特に事業面では、横浜市の青少年施策推進の中心的役割を果たせるよう、協会の設立趣旨に沿って、次の5項目を中期的な事業の柱として取り組んだ初年度でした。

- A 放課後児童育成
- B 青少年の自立支援
- C 青少年のための居場所づくり
- D 青少年の健全育成
- E 指定管理者としての実績づくり

『放課後児童育成』では、横浜市が開設している64か所のうち、新たに2か所の運営を開始し、全体の約31%にあたる20か所を運営しました。また、人材育成事業、事業プログラムの提供等を積極的に行いました。

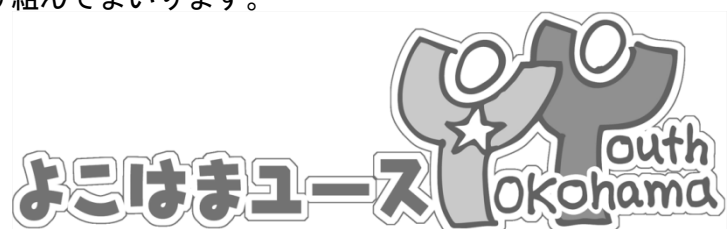
『青少年の自立支援』では、青少年を直接対象とした事業、スタッフ育成事業、保護者への啓発事業を協会が指定管理者として運営する青少年4施設の機能を活かし、専門機関・団体と協働で実施しました。

『青少年のための居場所づくり』では、協会のノウハウを活用し、主として地域で青少年を支援する人材育成に取り組みました。

『青少年の健全育成』では、青少年が直接体験できる事業、青少年指導者・育成者の育成、活動情報の提供等を、指定管理施設事業や放課後児童育成事業を活用し、関係機関・団体と連携を図り実施しました。

そして、『指定管理者としての実績づくり』では、施設特性を踏まえた運営を行うとともに、施設相互の連携を図り、効率的・効果的な事業展開や収益事業の実施、利用者増と満足度向上に努めました。その結果、指定管理4施設の利用者は約53万人、事業参加者は約50万人となりました。

今後も、青少年育成の専門機関として、青少年が様々な体験を通じて育つ機会の充実や青少年に向き合える人材の育成に、協会全体で取り組んでまいります。



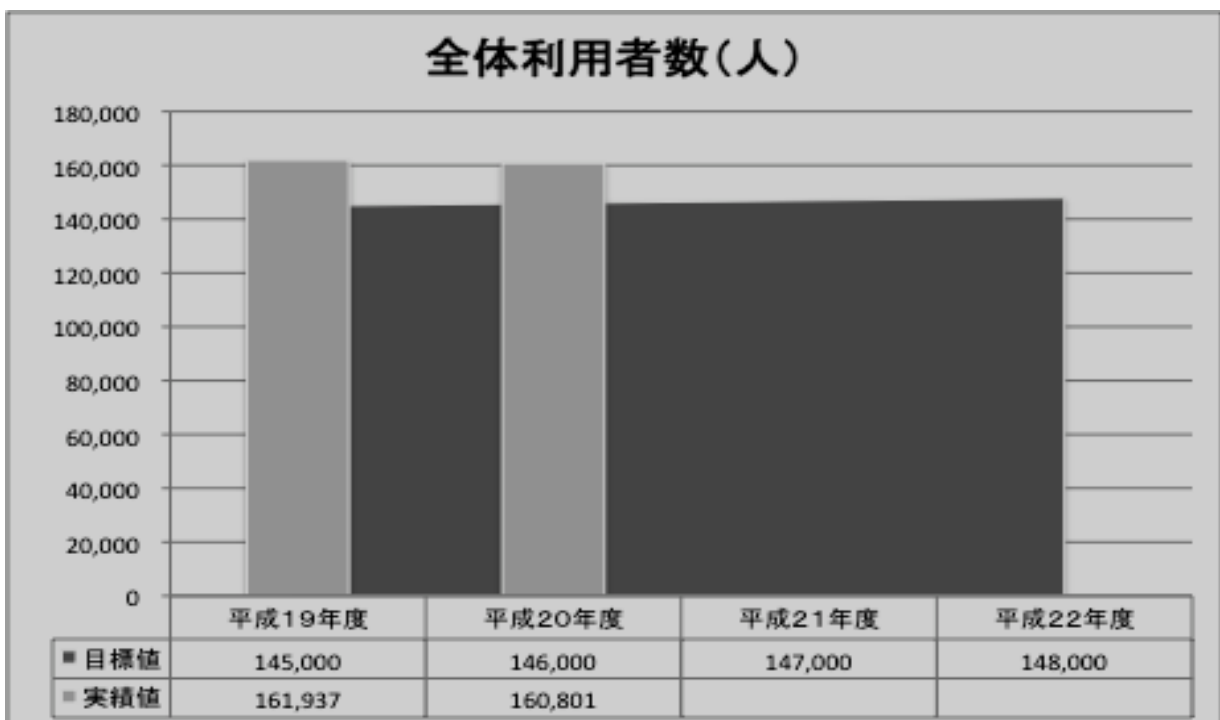
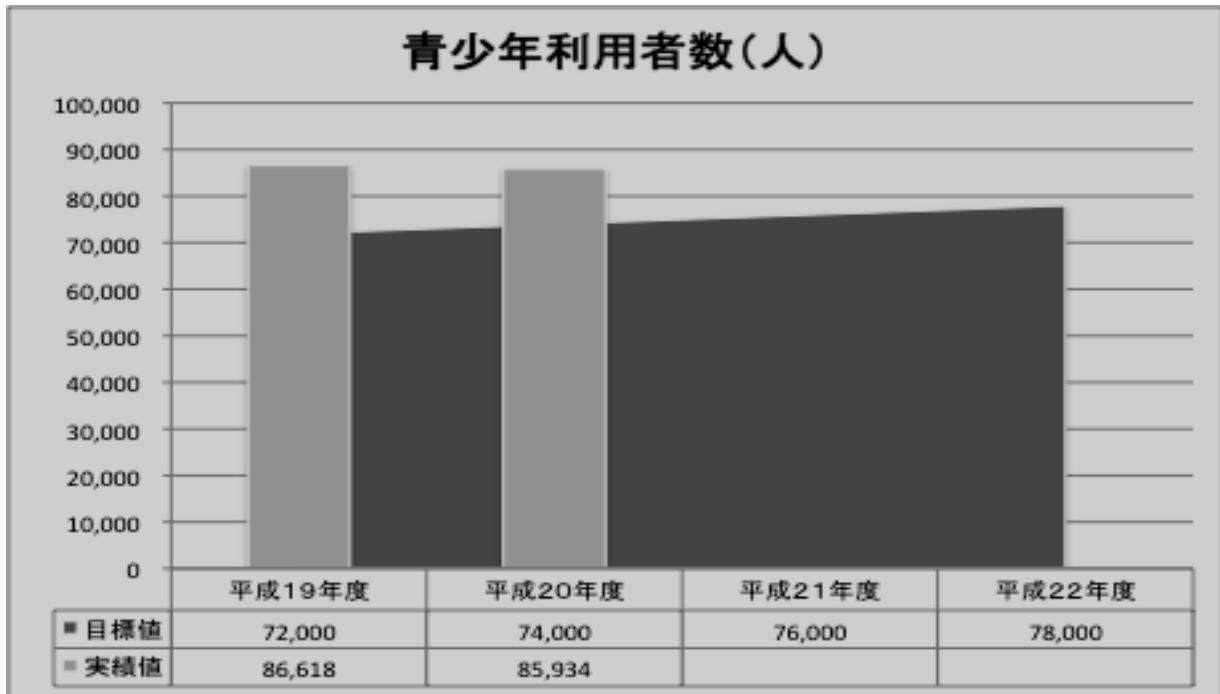
協約目標の達成

平成19年4月から4か年の期間で横浜市と締結した「協約」の2年次目にあたる平成20年度も、単に協約事項に定めた目標の達成を図るのではなく、横浜市が協会に期待する役割を十分認識し取り組むことにより公益的使命を果たしてきました。

協約事項 1

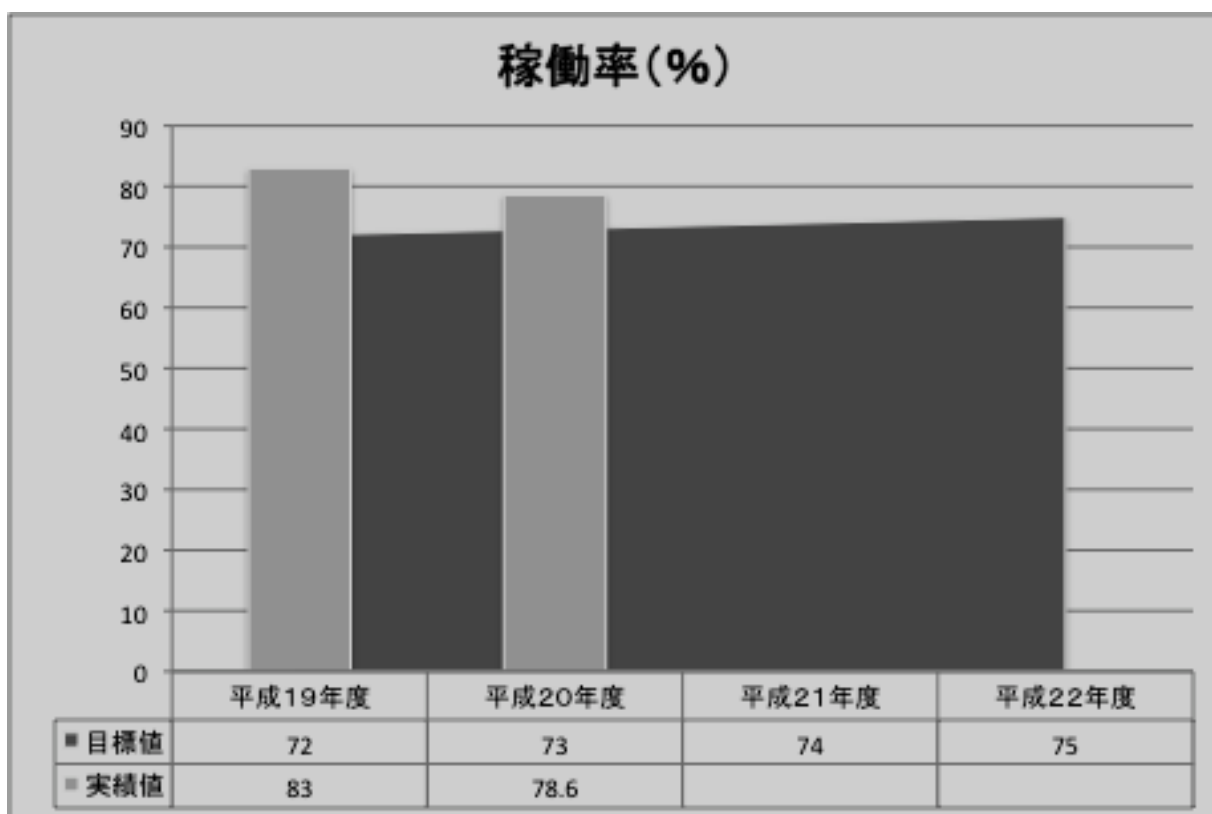
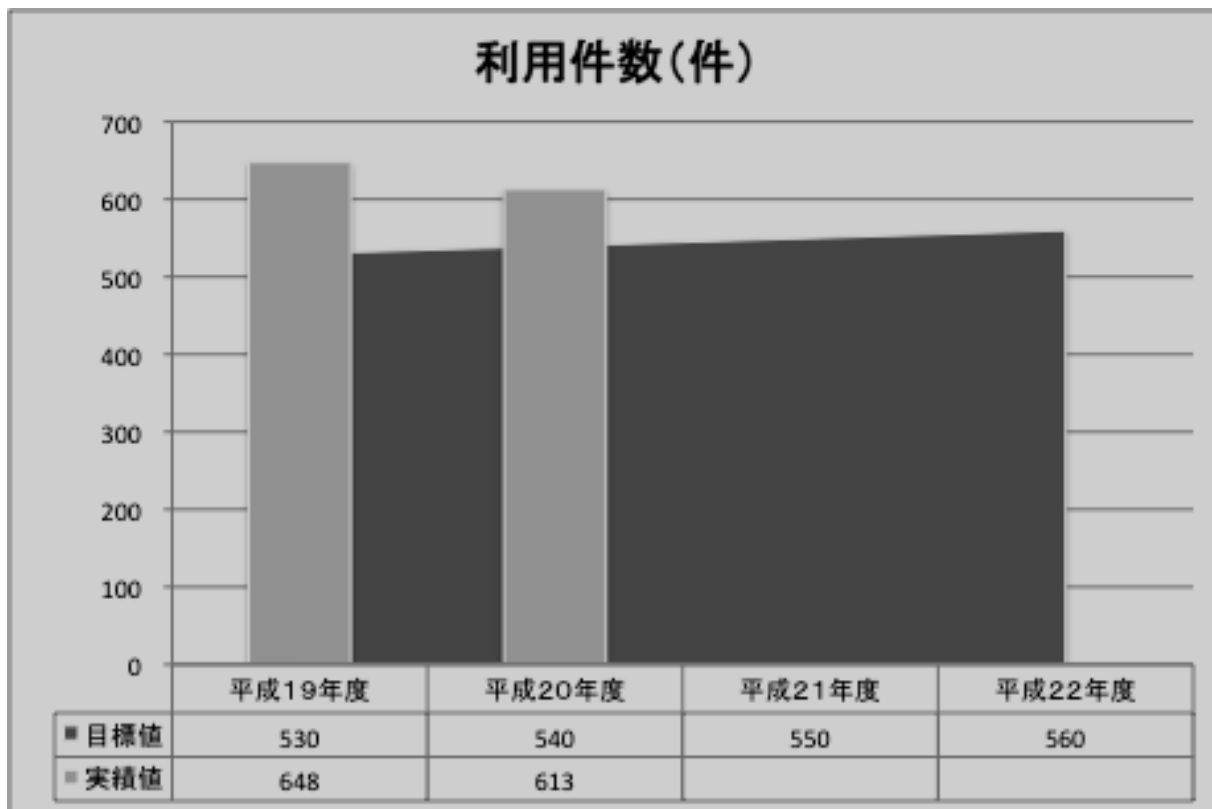
指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加（4施設10%以上）を図ります。また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加（10%以上）を図ります。

【横浜市青少年交流センター】

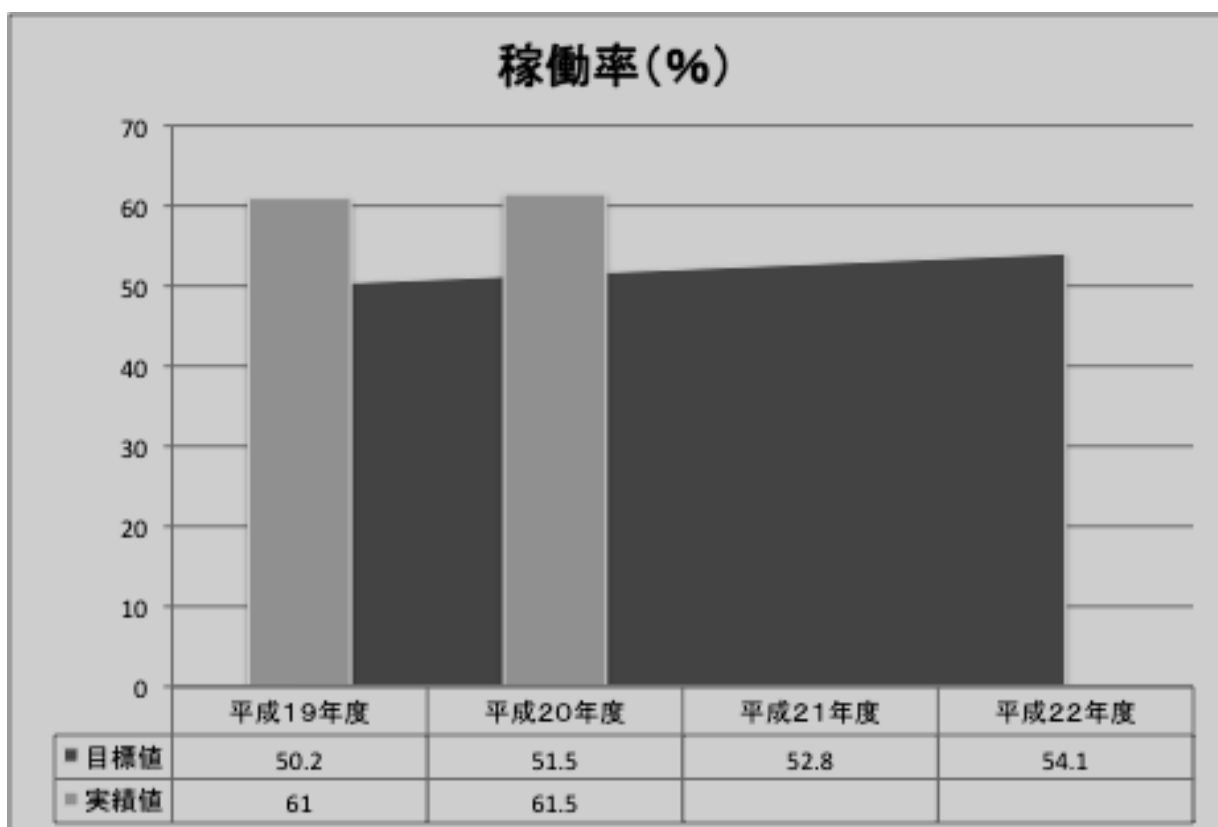
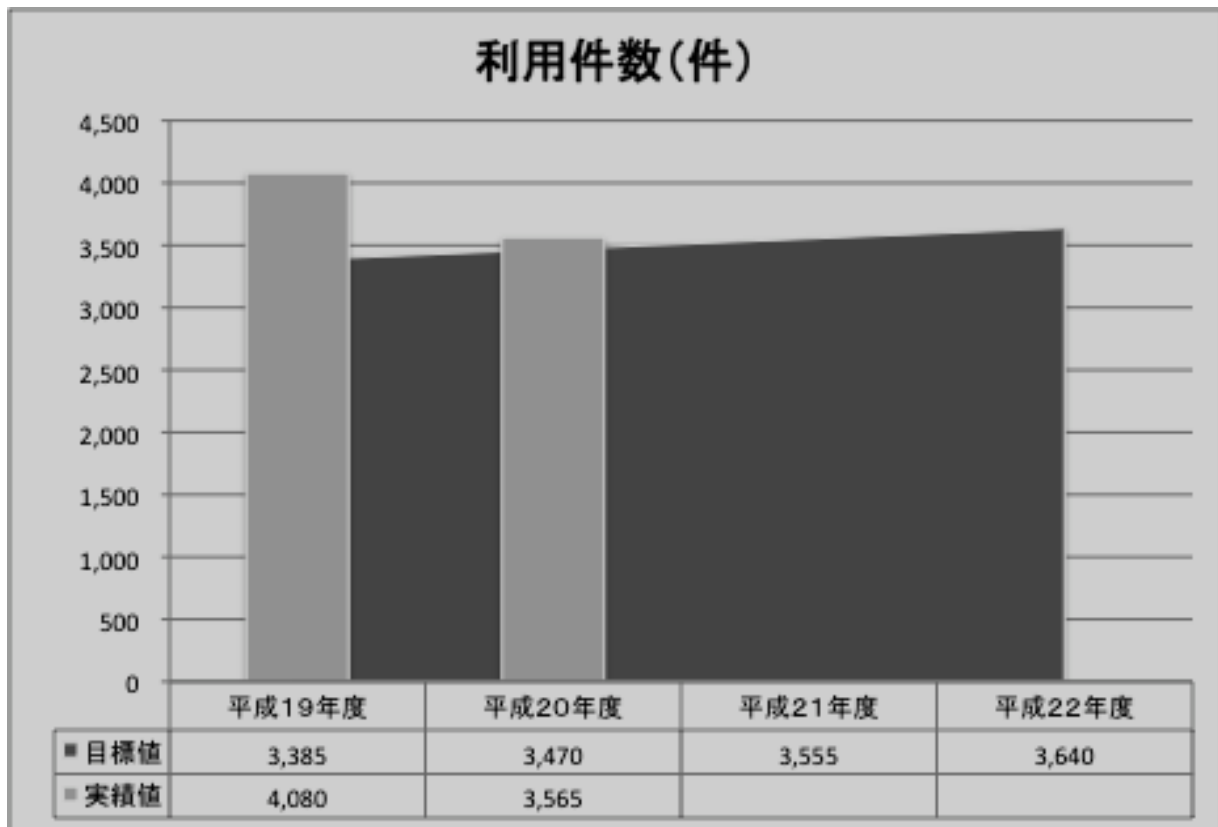


II 協会の事業

【横浜市野島青少年研修センター】

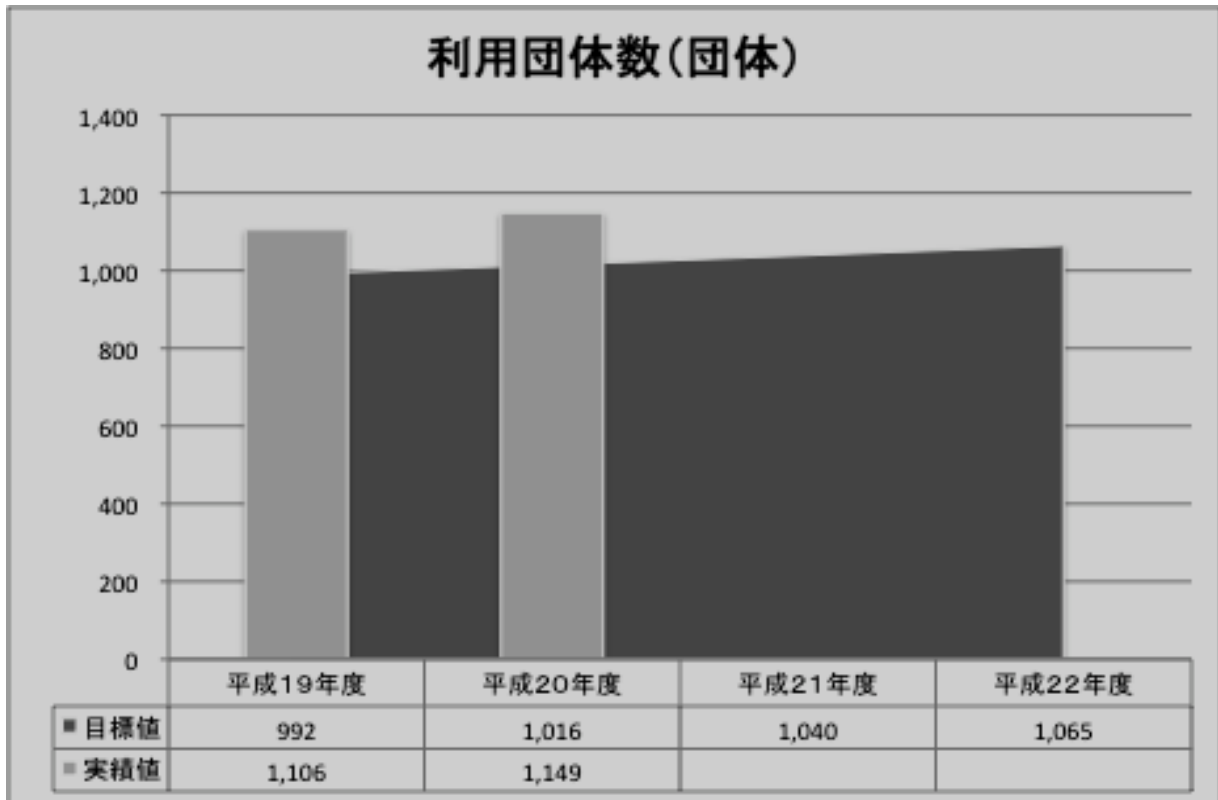


【横浜市青少年育成センター】

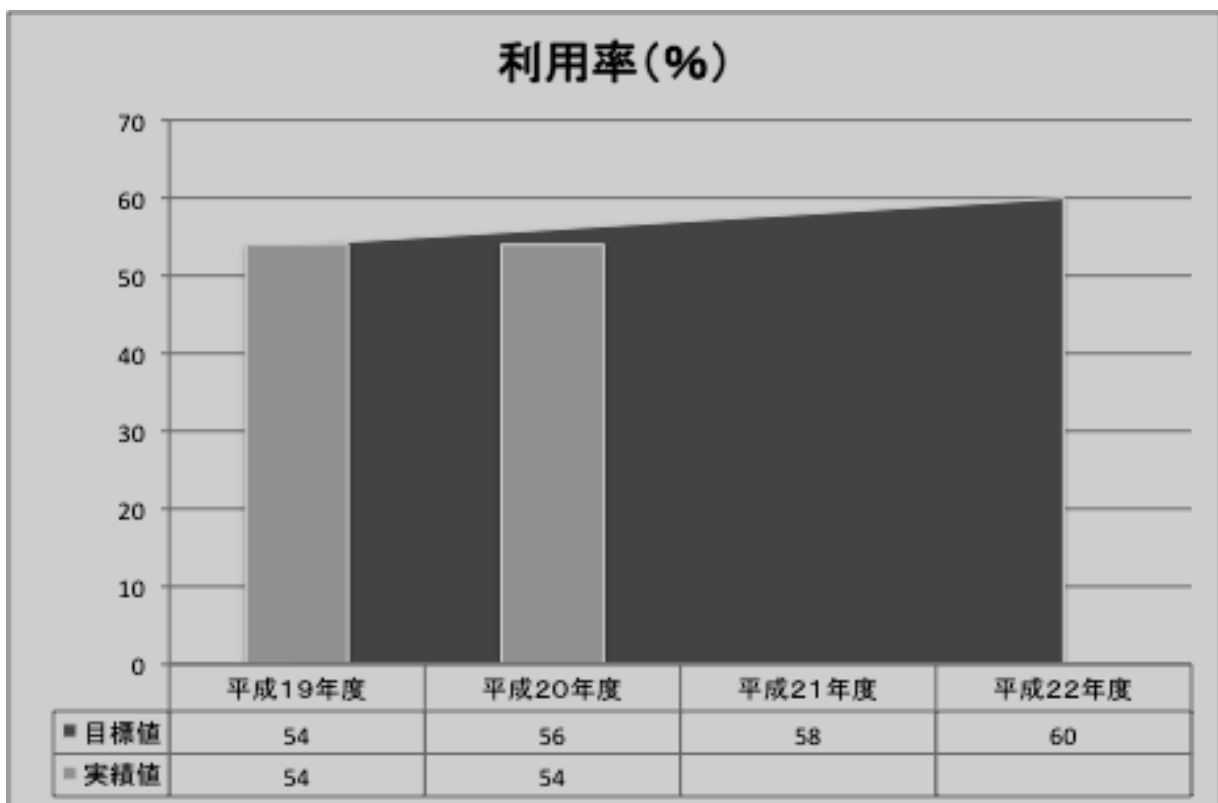


II 協会の事業

【横浜こども科学館】



【放課後キッズクラブ】

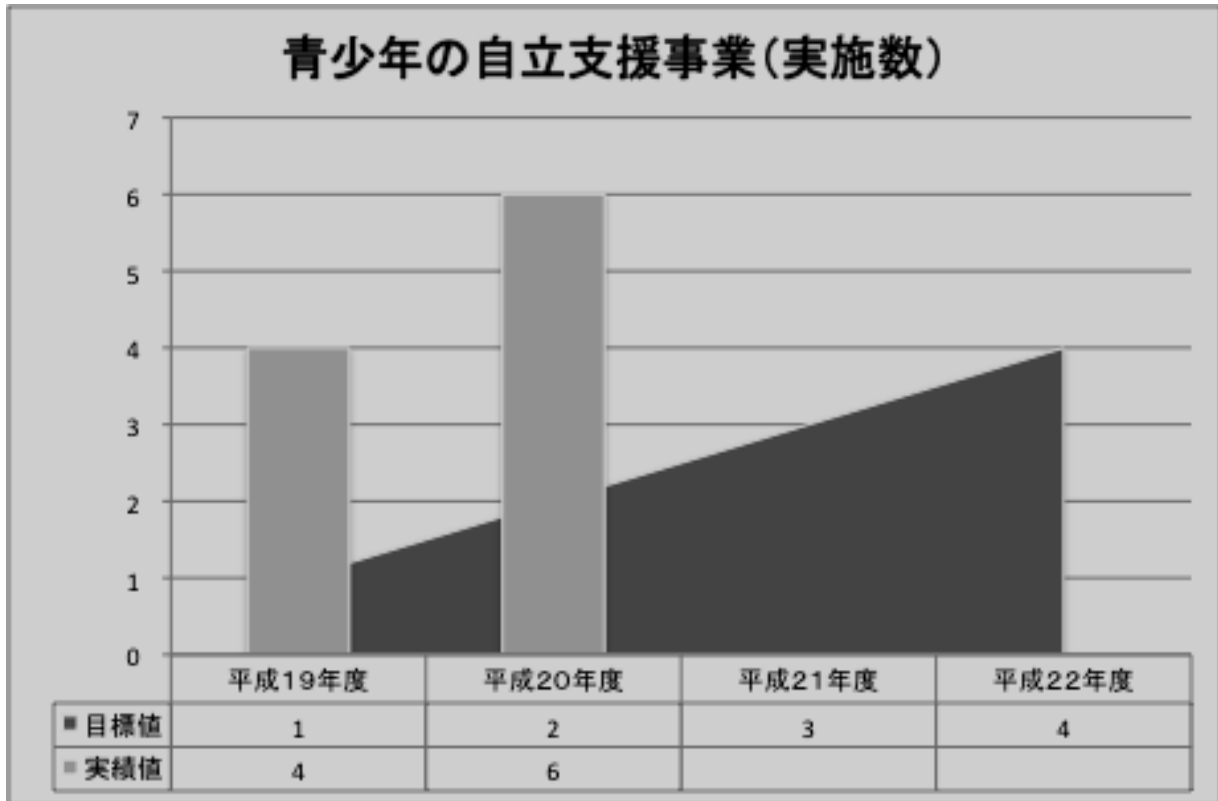


協約事項1に関しては、放課後キッズクラブの利用率（登録率）が協約の目標値に達しませんでした。主な理由としては、参加する子どもの人数が増加しキッズクラブに与えられたスペースでは、子どもたちが安全に過ごすことが難しく、積極的な登録（利用）の呼びかけを控えなければならないクラブが増えていることが原因だと思われます。今後もこの状況が続くことが予想されます。

協約事項 2

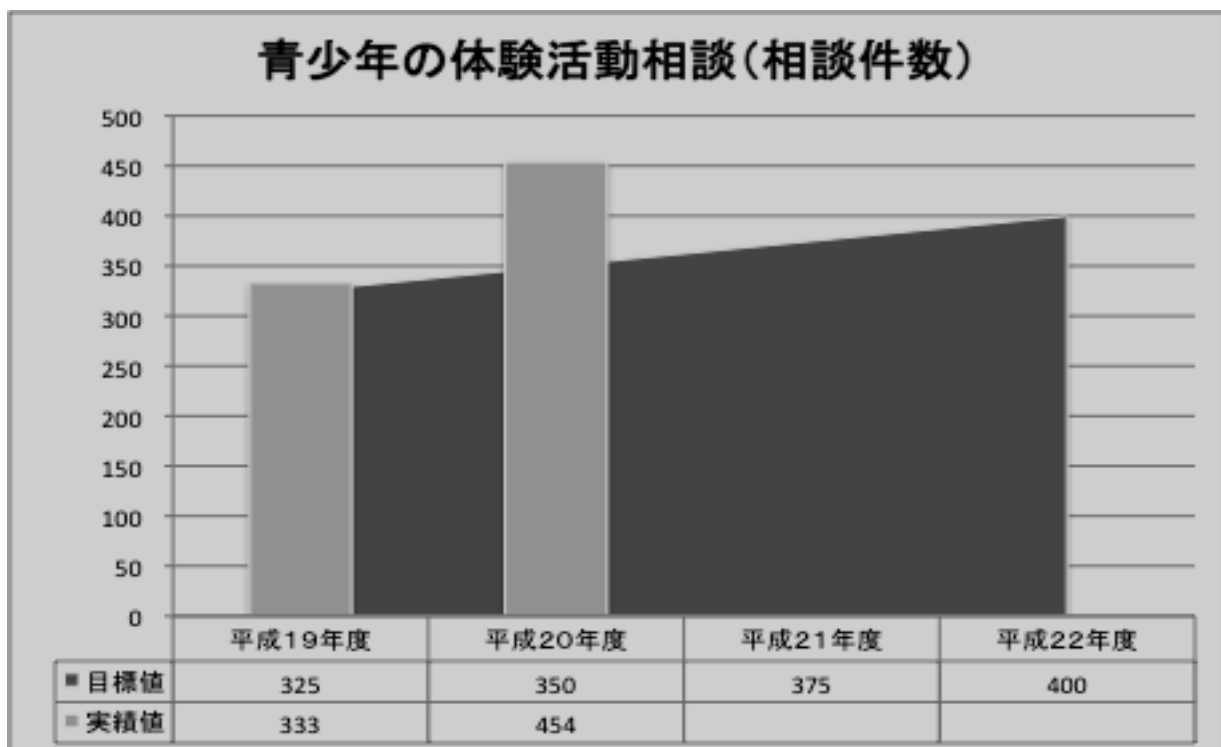
青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上（コーディネート件数63%以上）、青少年指導者等の講座への参加者数を380人以上とします。

【青少年の自立支援事業】

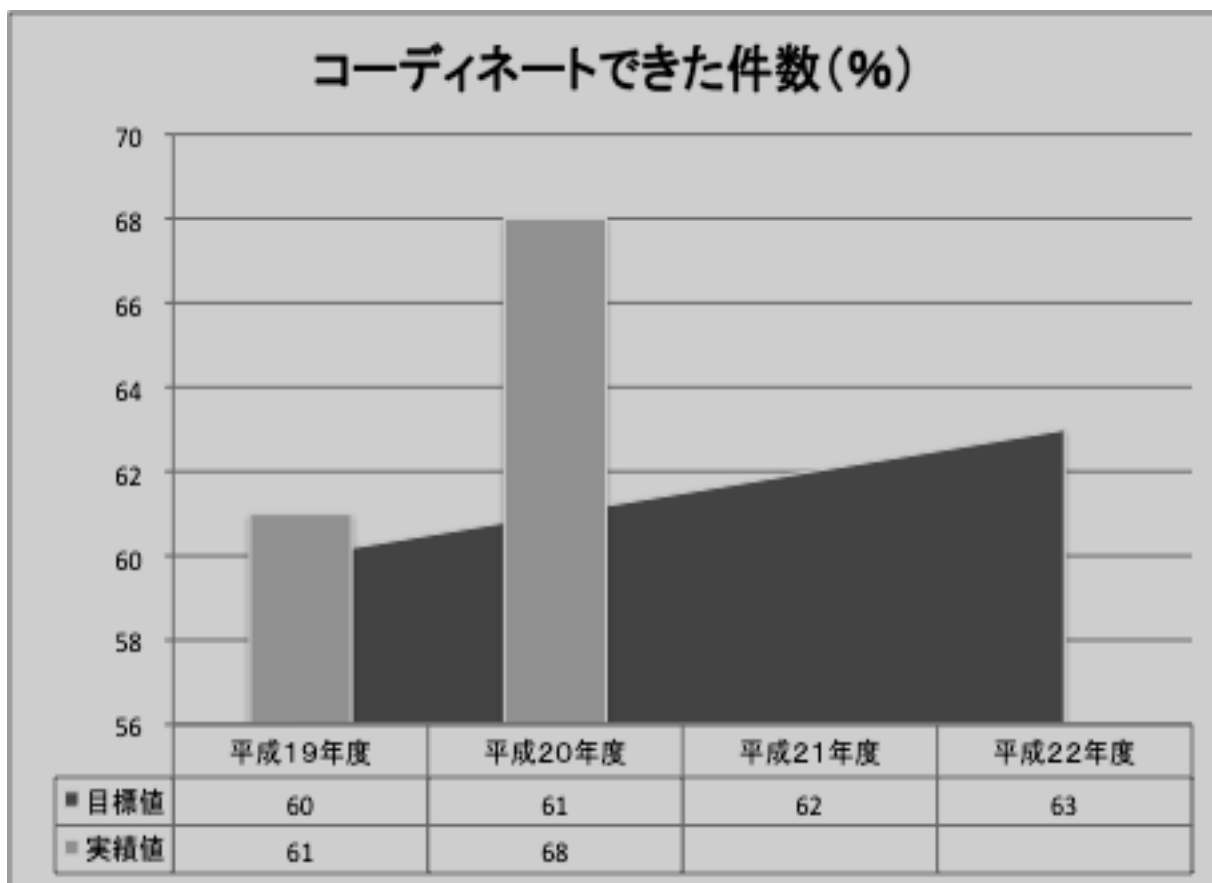


平成19年度から始めた課題のある青少年の自立支援事業の実績を知り、若者自立支援団体や大学から協会の運営する青少年施設で協働事業を開催したいとの申し出が増えました。

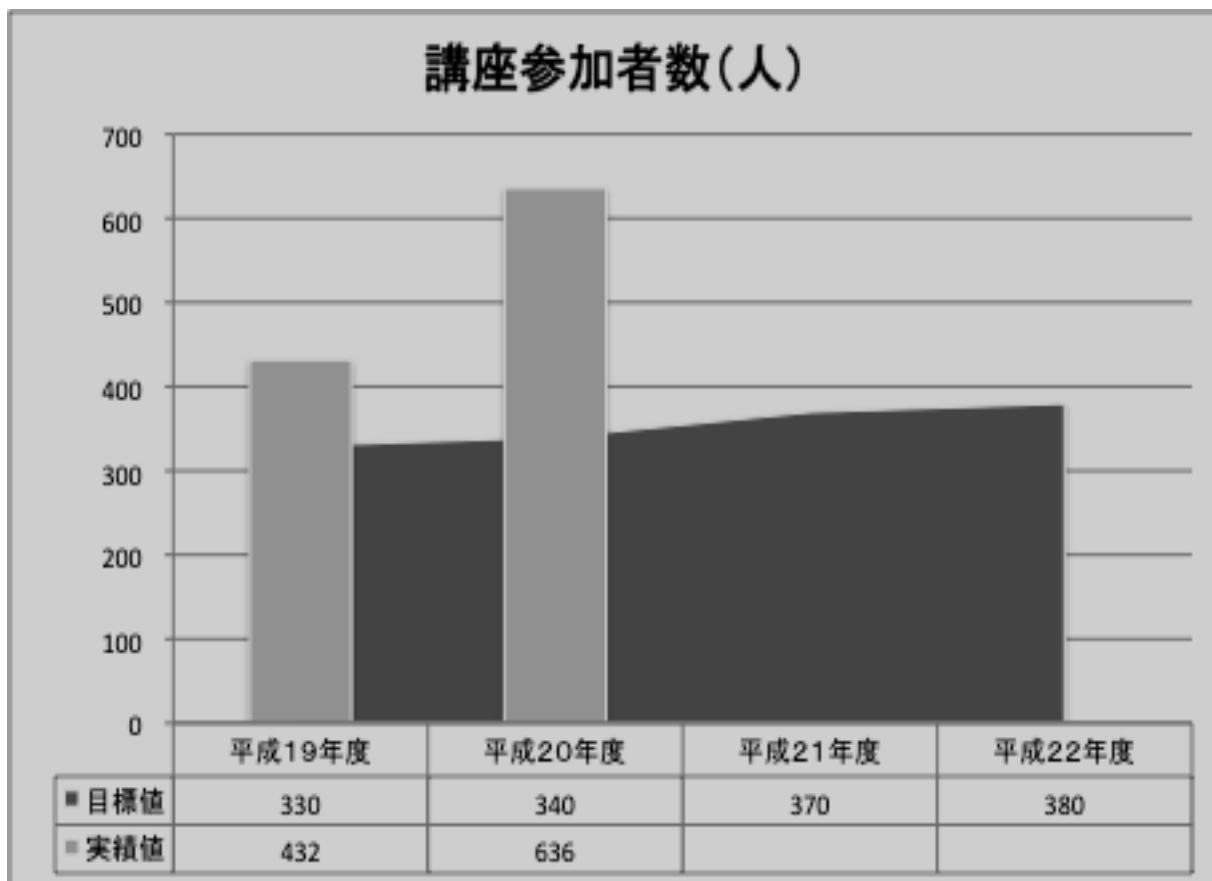
【青少年の体験活動の充実】



Ⅱ 協会の事業



【青少年指導者等の活動支援】

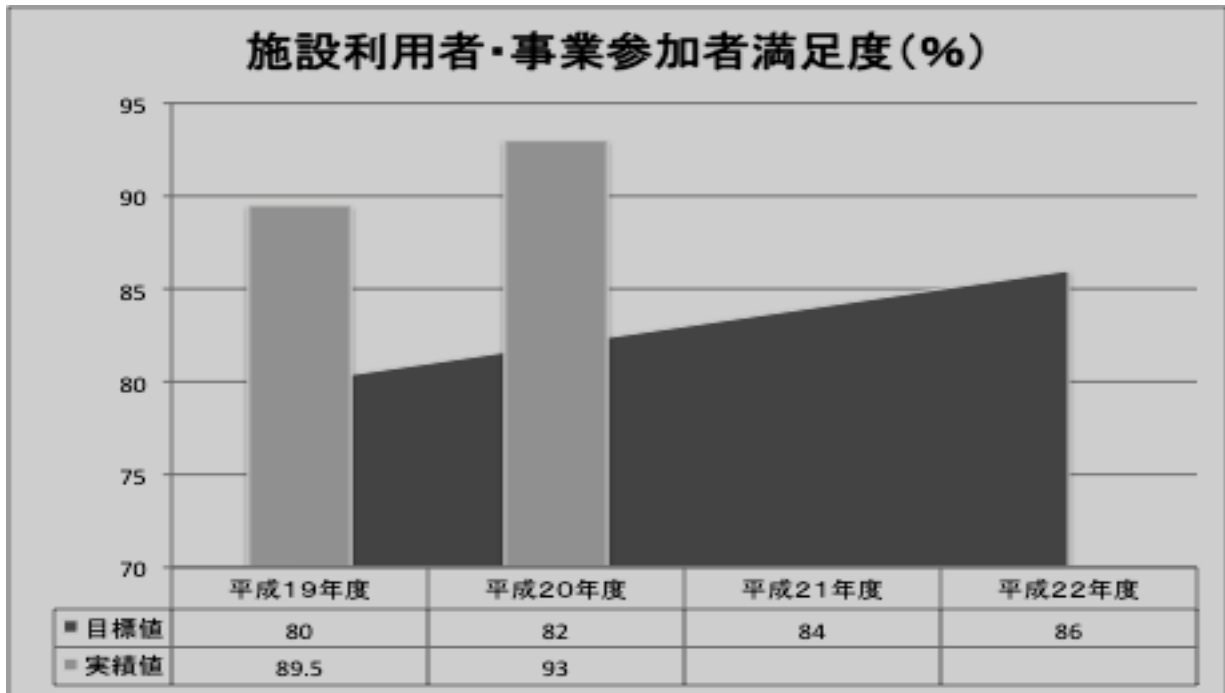


ホームページや広報媒体での事業周知を充実し、講座への参加者増に努めました。

協約事項 3

施設利用者、及び事業参加者の満足度（目的達成率）を86%以上とします。

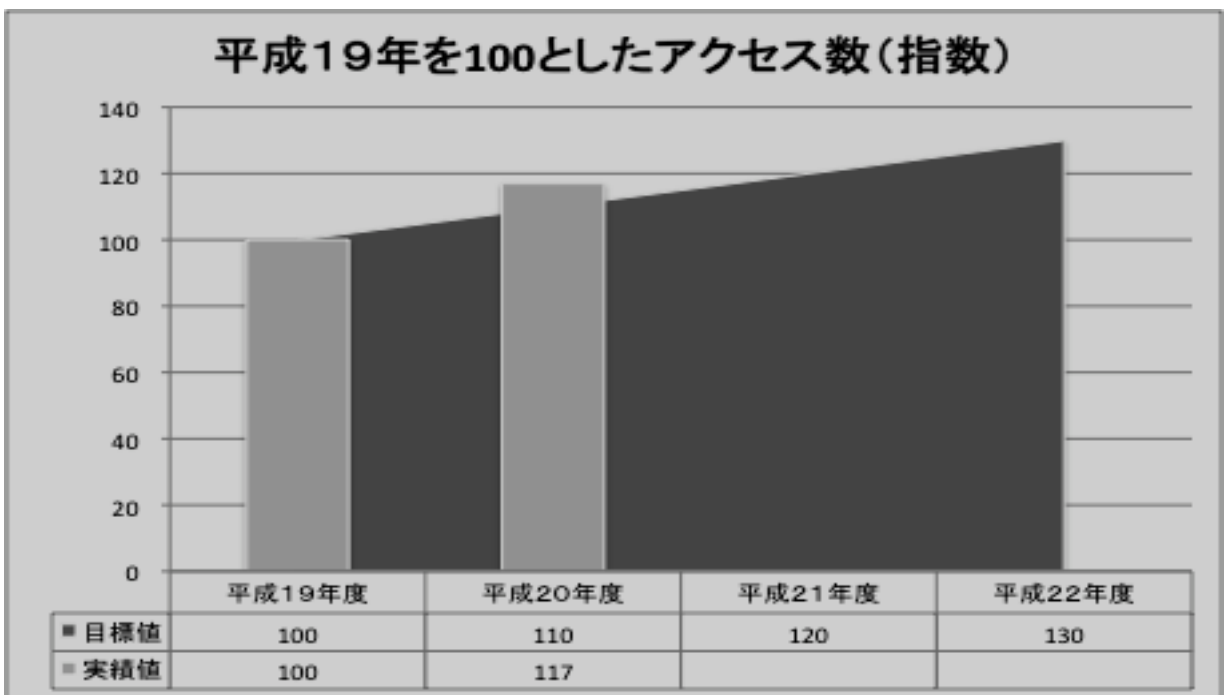
【満足度（目標達成率）】



協約事項 4

ホームページへのアクセス数を130（指数）以上とします。また、利用者の声の一層の反映を図ります。

【アクセス数】



【利用者の声の反映】

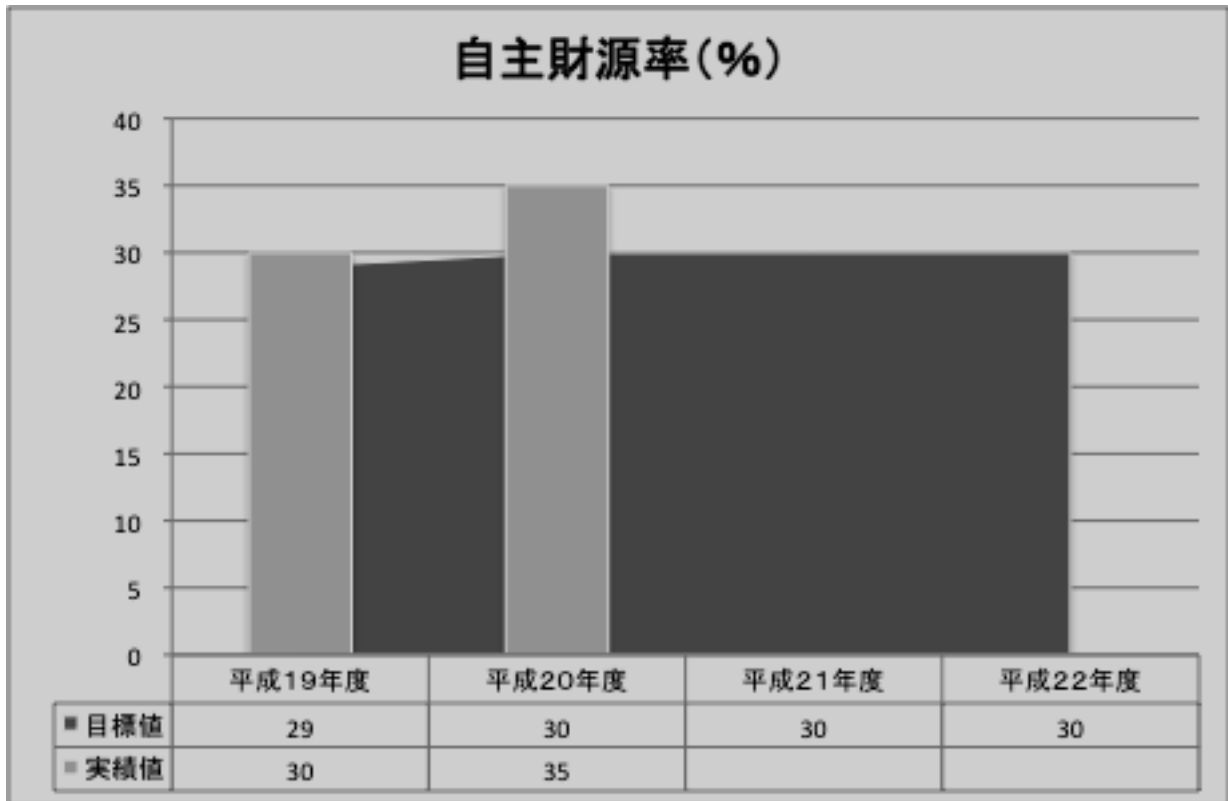
横浜の青少年施策の動向や青少年が抱える課題、及び協会が目指す青少年育成について、広く市民が情報を取得できるよう努めました。更に「施設の情報を充実させてほしい」という声を反映し、指定管理施設ごとのページ充実に向けた準備を行いました。

II 協会の事業

協約事項 5

自主財源比率を30%以上とします。

【自主財源率】



目標達成に向け、利用料金、事業収入、会費収入、ボランティア育成基金等の自主財源の確保を図りました。平成20年度は特に、利用料金、事業収入が増加しました。

協約事項 6

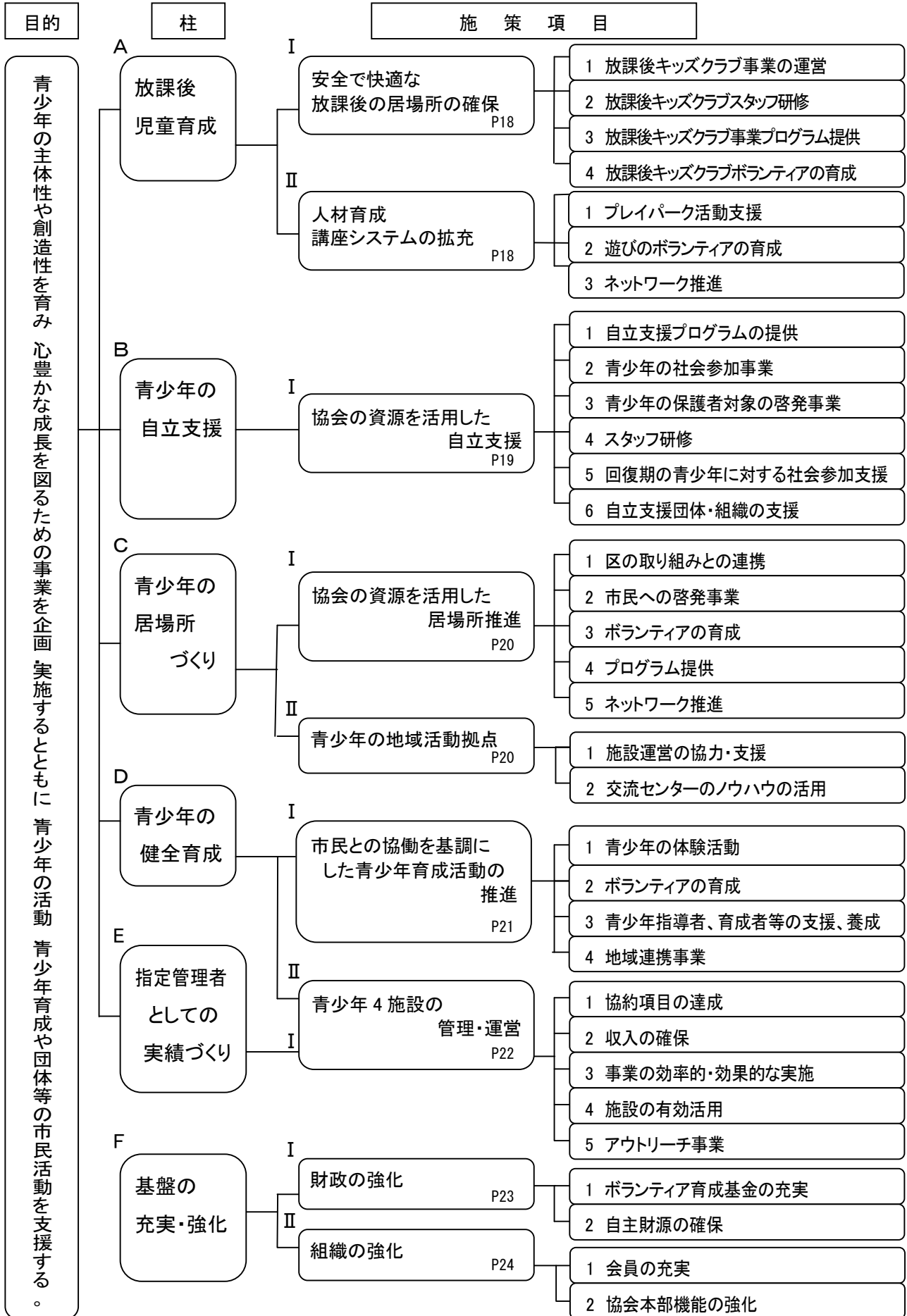
職員の意欲を引き出し、事業の充実や職員のスキルアップを図ることのできる新たな組織・人事給与制度を導入します。

【新たな組織・人事給与制度の導入（人材育成、人事考課制度の導入）

組織・人事給与検討委員会の提言をもとに平成19年度に行った組織改革を更に進めました。給与制度に関しては、管理職へのMBOを本格的に実施しましたが、給与の具体的改善には及びませんでした。

また、職員研修や職場研修（OJT）を充実し、人材育成に努めました。

平成20年度 事業体系



組織強化

1 組織改革（資料集P10参照）

「組織・人事給与改革委員会（H19）」で検討提案した「年次別の組織改革案」をもとに、新法人への移行準備や次期指定管理者獲得の課題を中心に検討し、本部機能を強化する事務局組織改革を更に進めました。

2 事業評価委員会による事業評価（PDCAサイクルの充実）（資料集P10参照）

協会事業を内部、及び外部双方から客観的な視点で評価し、その結果を反映し事業を改善していくことを目的として、各職場で実施した事業評価をもとに、青少年育成に理解のある外部委員による評価をいただきました。

3 職員研修の充実（資料集P10参照）

職員の資質向上をめざし、外部研修への職員の積極的な参加を図るとともに、時給職員を含む全職員を対象とした人権研修（前期3回、後期3回）や各職場単位での個人情報保護研修、職員研究交流集会を実施した他、職場研修（OJT）を充実しました。

A 放課後児童育成

I 安全で快適な放課後の居場所の確保

1 放課後キッズクラブ事業の運営（資料集P11参照）

協会の運営する 20 か所の放課後キッズクラブでは、在籍児童の 54.1% (20 か所の平均値) が登録しました。

この 1 年間で各放課後キッズクラブ月平均約 1,482 人、総計 340,898 人が利用し、各放課後キッズクラブで実施したプログラム数は、毎月平均約 22 回、年間総計 5,150 回でした。

2 放課後キッズクラブスタッフ研修（資料集P12-14参照）

横浜市子ども青少年局放課後児童育成課が実施している放課後三事業^{※1} 528 か所のスタッフを対象とした 85 講座の研修を企画・運営し、1,971 人が参加しました。また、協会が運営する 20 か所の放課後キッズクラブスタッフ研修、平成 20 年度開設キッズスタッフ研修を実施しました。

※1 放課後三事業：①はまっ子ふれあいスクール(285)・②放課後児童クラブ(学童保育)(179)・③放課後キッズクラブ(64)

3 放課後キッズクラブ事業プログラム提供（資料集P14-16参照）

クラフトをテーマにした講座や安全教育、障害児対応の研修 15 講座（参加者 220 人）を企画・運営するとともに、放課後キッズクラブ全体のドッジボール大会（参加者 448 人）を開催しました。

また、主任指導員会議（14 回）・指導員会議（5 回）・放課後キッズクラブ主任指導員連絡会（2 回）等を活用し活動プログラムの紹介や情報交換を行いました。

4 放課後キッズクラブボランティアの育成（資料集P14参照）

放課後三事業でのボランティア活動を希望する青年等を対象とした研修、及び現場実習を行いました。

II 人材育成講座システムの充実

1 プレイパーク活動支援（資料集P7参照）

洋光台まちづくり協議会が試行的に実施した「洋光台ミニプレイパーク」（3 回）に協力しました。

この実績を踏まえ、平成 21 年度に横浜市の「プレイパーク運営支援要綱」に基づく活動団体「洋光台駅前公園プレイパーク運営委員会」が立ち上げられました。本格的な活動実施に向けて今後も支援を続けていきます。

2 遊びのボランティアの育成（資料集P7参照）

市内 11 か所のプレイパークをはじめとする”遊びの場”に関わるボランティアの育成研修（全 3 回、参加者 77 人）を実施しました。また、研修参加者が地域で継続的に活動が実施できるように、フォローアップ研修（参加者 20 人）やスキルアップ研修（参加者 19 人）も実施しました。

II 協会の事業

3 ネットワーク推進（資料集P15参照）

各放課後キッズクラブの運営に関わる評議会や保護者会を開催するとともに、各放課後キッズクラブ主任指導員、及び指導員の会議を定期的に行い、情報交換や連携事業等を行いました。

B 青少年の自立支援

I 協会の資源を活用した自立支援

協会が指定管理者として運営する青少年施設を活用し、事業を実施しました。

1 自立支援プログラムの提供／青少年の社会参加事業（資料集P17, 18, 21-23, 27参照）

若者自立支援講座（支援者向け1回、若者向け1回）、将来について考える場の提供（4事業）、野島自立支援プログラム（4事業）を自立支援に取り組む機関・団体や大学と協働で実施し、総計483人の青少年に体験活動や将来について考える機会を提供しました。

また、横浜市青少年交流センターでは来館する青少年を対象に、ロビーワーク^{※2}を通じて青少年に対する相談や支援を日常的に行っています。

※2 ロビーワーク：スタッフによるロビー（フリースペース）に集まる利用者たちとの関わり合いや、そこで行われる様々な事業の総称

2 青少年の保護者対象の啓発事業（資料集P17, 18参照）

発達障害支援者のためのネットワークセミナー（全2回）、若者自立支援講座（保護者向け1回）を自立支援に取り組む機関・団体と協働で実施し、保護者への啓発や支援を行いました。（参加者数79人）

3 スタッフ研修（資料集P10参照）

地域における若者の自立支援に係る内閣府の取り組みとして横浜市が実施した、ユースアドバイザー講習会（全9回）に協会職員3人が参加し、青少年の健全育成を含めて、若者の社会的・経済的自立のための社会資源や取り組みを学ぶとともに、関係機関・団体とのネットワークを広げました。

4 回復期の青少年に対する社会参加支援（資料集P20参照）

横浜市青少年交流センターで実施している、青年ボランティア活動に回復期の若者や障害のある青少年を受け入れ、同年代の青少年と集団で活動することにより他者との関係づくり等の社会性を育み、達成感や自己有用感から自信を持てるよう支援することで、社会参加のきっかけづくりを行いました。

5 自立支援団体・組織の支援（資料集P17, 18, 21-23, 27参照）

青少年の自立支援に係る研修会・講習会、社会体験等活動、宿泊体験活動等を自立支援機関・団体と協働で実施することを通じ活動を支援するとともに、自立支援機関・団体とのネットワークを強化しました。

また、横浜市教育委員会が行う適応指導教室「ハートフルスペース」（不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生徒指導）の実施にあたり、横浜市青少年交流センターを提供（毎週水曜日）しました。

C 青少年のための居場所づくり

I 協会の資源を活用した居場所推進

主に、協会が指定管理者として運営する横浜市青少年交流センターのノウハウを活用し、事業を実施しました。

1 区の取り組みとの連携（資料集P23参照）

鶴見区の「まちの力で育む青少年育成モデル事業（生麦プロジェクト）」、及び協会のボランティア育成基金運用事業「学校教育と連携した地域人材活用システム事業（十日市場中学校地域交流事業）」の実施場所の緑区と連携し、青少年の居場所事業を推進しました。

鶴見区生麦プロジェクトは、平成20年度、こども青少年局が推進する青少年の地域活動拠点事業として位置づけられました。

2 市民への啓発事業（資料集P23参照）

日本青年都市会議、横浜市と共催で全国の青少年育成関係者、及び市民を対象とした「青少年の居場所づくりフォーラム」を実施し、横浜市の取り組みの紹介や他都市との情報交換を行い、青少年の居場所の啓発を行いました。（参加者170人）

3 ボランティアの育成／プログラム提供（資料集P14, 19, 20, 25, 32参照）

日常的に地域で子どもたちに向き合う人材育成事業を実施（青少年ボランティア育成事業5事業、参加者194人）するとともに、地域で開催される研修会・講習会等で居場所づくりのノウハウを提供しました。

4 ネットワーク推進（資料集P23参照）

こども青少年局と協働で、各区の青少年の居場所推進を担当する職員を対象に、情報交換の機会を提供しました。（2回）

II 青少年の地域活動拠点

1 施設運営の協力・支援／交流センターのノウハウの活用（資料集P23参照）

交流センターのノウハウ活用や運営の支援を行うためのネットワークづくりの一環として、保土ヶ谷区、都筑区、中区、磯子区、鶴見区に設置されている青少年の地域活動拠点スタッフと連携し、「青少年の居場所づくりフォーラム」の企画段階から協働で準備を進めました。

当日は、横浜市内の状況を全国に向けて発信しました。これをきっかけに、今後は定期的に情報交換会等を通じて更にネットワーク化を図ります。

II 協会の事業

D 青少年の健全育成

I 市民との協働を基調にした青少年育成活動の推進

協会が指定管理者として運営する青少年4施設を中心に、市民団体等との協働事業を実施するとともに、活動情報や活動の場を提供し市民の青少年活動への参画を図りました。

1 青少年の体験活動（資料集P8, 9, 20, 24, 32参照）

野島クリスマスキャンプ、ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル 2008 のスタッフ活動、開港150周年記念事業FUNEプロジェクト、高校生水源林ボランティア等、青少年に宿泊体験、職業体験、自然体験をはじめとする様々な体験機会を提供しました。（6事業、参加者数499人）

2 ボランティアの育成（資料集P8, 19, 22, 25, 33参照）

施設や事業に青少年ボランティアを導入し、事業の充実、及び活動を通じた青少年の育成を目的とした活動機会を提供しました。（16事業、参加数934人）

3 青少年指導者、育成者等の支援、養成（資料集P10, 17, 18参照）

青少年活動を行う人材育成のために、講座・研修（14事業）を実施するとともに、地域活動の充実を目指し、地域で開催される研修会・講習会等に講師を派遣しました。（47件）

4 地域連携事業（資料集P8, 21, 25-27, 32参照）

協会のボランティア育成基金運用事業として「学校教育と連携した地域人材活用システム事業（十日市場中学校地域交流事業）」、「洋光台サイエンスクラブ」の2事業を実施した他、青少年4施設並びに放課後キッズクラブ事業もできる限り地域連携で実施することに努め、青少年活動への市民の参画を図りました。（地域連携事業23事業、107回）

5 情報紙やインターネットによる情報提供（資料集P7, 32参照）

青少年育成に関する情報提供を充実し、市民との協働や参画により青少年育成を推進するため、ホームページ、及び情報紙（はまユース情報年6回、YOKOHAMA EYES年4回、みみよりサイエンス年4回）による情報提供を行いました。

E 指定管理者としての実績づくり

I 青少年4施設の管理運営

青少年4施設の指定管理者として、施設特性を踏まえた運営を行うとともに、施設相互の連携を図り、効率的・効果的な事業展開や収益事業の実施、利用者増と満足度向上に努めました。

管理面では、利用者の安全・安心を確保する維持・管理を行いました。

1 横浜市青少年育成センター（資料集P17-19参照）

地域や団体において青少年育成に取り組む核となる指導者、育成者の養成、市民活動団体等青少年育成団体への支援を通して、青少年育成活動の推進を図りました。

ボランティア情報スポットが、横浜市の青少年育成の情報センター的な役割を果たせるよう取り組むとともに、センター利用件数、及び利用料金収入の増加、利用率の向上に努めました。

◆開館日数・利用状況

| 年度 | 開館日数 | 研修室・スタジオ | | 印刷室 利用件数 | 物品貸出 利用件数 |
|----|------|----------|---------|-------------|--------------|
| | | 利用団体 | 利用人数 | | |
| 19 | 336日 | 4,080件 | 53,459人 | 660件 | 146件 |
| 20 | 335日 | 3,565件 | 43,604人 | 482件 | 88件 |

平成20年度は関内ホールの外壁工事（平成20年12月～平成21年3月）に伴い、会議室等の利用が制限（66日）されたため、利用が減少しています。なお、この期間も予約受付や問合せ対応等の業務は行っていましたので、開館日数には影響ありません。

◆事業実施数：12事業 参加者数：636人

2 横浜市青少年交流センター（資料集P19-23参照）

青少年が安心して気軽にくつろげる居場所の拠点施設として、青少年が様々な人と交流し、自立性や社会性を育む場を提供しました。また、市内に青少年の居場所機能を持つ場所や活動が広がるよう、居場所機能に関するノウハウを関係施設、団体等に提供し、活動の支援を行いました。

ロビーワークの充実や、できるだけ制限を設けない会議室、スタジオの貸出、地域との交流事業等により、施設の活性化を行いました。

◆開館日数・利用状況

| 年度 | 開館日数 | 利用状況 | | | | | |
|----|------|---------|------|---------|------|----------|------|
| | | 青少年 | 1日平均 | 青少年以外 | 1日平均 | 総計 | 1日平均 |
| 19 | 348日 | 86,618人 | 249人 | 75,319人 | 216人 | 161,937人 | 465人 |
| 20 | 347日 | 85,934人 | 248人 | 74,867人 | 216人 | 160,801人 | 463人 |

◆事業実施数：45事業 参加者数：3,833人

II 協会の事業

3 横浜市野島青少年研修センター（資料集P24-28参照）

宿泊施設という特長を活かして、集団活動を通じた青少年の育成を行いました。また、青少年指導者・育成者の研修活動支援と、提供プログラムの開発、施設環境の内容の充実等に取り組み、利用件数や稼働率の増加を図りました。

◆開館日数・利用状況

| 年度 | 開館日数 | 利用日数 | 宿泊 | | 日帰り | | 合計 | |
|----|------|------|------|---------|------|--------|------|---------|
| | | | 団体 | 人数 | 団体 | 人数 | 団体 | 人数 |
| 19 | 348日 | 271日 | 454件 | 22,555人 | 194件 | 8,354人 | 648件 | 30,909人 |
| 20 | 347日 | 254日 | 420件 | 21,923人 | 193件 | 8,562人 | 613件 | 30,485人 |

◆事業実施数：14 事業 参加者数：7,182 人

4 横浜こども科学館（はまぎん こども宇宙科学館）（資料集P28-33参照）

青少年の科学に関する知識の啓発を図り、創造性豊かな青少年の育成に寄与するため、企画展、各種教室、イベント等を開催するとともに、展示室（特別展示、常設展示）、及び宇宙劇場の安定稼働に努めました。また、宇宙劇場におけるプラネタリウム番組内容の充実、収益プログラムの実施に取り組み、入館者・入場者、及び収益の増加を図りました。

また、科学館開館25周年事業（平成21年度4月）の準備にも全館体制で取り組みました。

◆開館日数・利用状況

| 年度 | 開館日数 | 入館者数 | 1日平均入館者数 | 宇宙劇場入場者数 | 1日平均入場者数 |
|----|------|----------|----------|----------|----------|
| 19 | 340日 | 291,703人 | 858人 | 165,139人 | 486人 |
| 20 | 334日 | 293,911人 | 880人 | 173,188人 | 519人 |

◆事業実施数：90 事業 参加者数：484,505 人

F 基盤の充実・強化

I 財政の強化

1 ボランティア育成基金の充実（資料集P8参照）

青少年を対象とした、ボランティア活動・青少年育成活動を推進するための「ボランティア育成基金」の拡充、及び基金事業の充実を図りました。

（1）基金委員会

基金募集のため「第48回爆笑！濱っ子寄席」「デジカメ講座（平成20年度に新規実施）」や基金箱の設置等の事業を実施しました。

また、基金の有効活用を図るため、青少年体験活動推進コーナーの運営や「学校教育と連携した地域人材の活用システム事業」をはじめとする基金事業の評価を行い、次年度事業計画に反映しました。

◆委員会開催回数：10回

II 協会の事業

(2) 基金の募集状況

| | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|----------------|------------|------------|------------|
| 個人・団体・企業寄付 | 1,362,377円 | 4,176,881円 | 710,477円 |
| 育成基金箱 | 389,315円 | 324,547円 | 501,949円 |
| 基金募集事業 | 932,000円 | 929,000円 | 1,020,000円 |
| 使用済みプリペイドカード収集 | 19,348円 | 12,483円 | 1,721円 |
| 合 計 | 2,703,040円 | 5,442,911円 | 2,234,147円 |

2 自主財源の確保 (資料集P7,32,33参照)

自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うために企業協賛の獲得に努め、青少年育成活動情報紙、協会広報紙、科学情報紙への企業協賛による広告を掲載しました。

また、指定管理付帯事業として、科学館の売店、駐車場の運営による自主財源の確保に努めました。

II 組織の強化

1 会員の充実 (資料集P9,10参照)

協会活動を支えていただいている会員の皆様に、協会への理解をより一層深めていただくため情報提供(協会だより 年6回)、会員交流会(新春のつどい 参加者100人)を行いました。

◆平成20年度会員数：975件

2 協会本部機能の強化 (資料集P4,10参照)

事務局組織体制の改革を更に推進するため、新たに顧問社会保険労務士、人材派遣職員の導入を行う等、本部機能を強化しました。(I協会の運営 組織強化(P16)参照)

3 理事会

| 回 | 開 催 日 | 主 な 内 容 |
|---|---------------|-------------------------------|
| 1 | 平成20年6月16日(月) | 評議員の選任、平成19年度事業報告、及び決算(案)等 |
| 2 | 平成21年3月23日(月) | 評議員の選任、平成21年度事業計画(案)、及び予算(案)等 |

4 評議員会

| 回 | 開 催 日 | 主 な 内 容 |
|---|---------------|------------------------------|
| 1 | 平成20年6月16日(月) | 理事の選任、平成19年度事業報告、及び決算(案)等 |
| 2 | 平成21年3月23日(月) | 理事の選任、平成21年度事業計画(案)、及び予算(案)等 |

平成20年度事業報告

資料集



財団法人 横浜市青少年育成協会

目 次

協会の運営

| | |
|-----------------------|-----|
| I 協約目標の達成 | P 1 |
| 協約事項 1 (P1) | |
| 協約事項 2 (P1) | |
| 協約事項 3 (P2) | |
| 協約事項 4 (P2) | |
| 協約事項 5 (P3) | |
| 協約事項 6 (P3) | |
| II 組織強化 | P 4 |
| 1 組織改革 (P4) | |
| 2 事業評価委員会による事業評価 (P4) | |
| 3 職員研修の充実 (P4) | |

協会の事業

| | |
|------------------------|-------|
| 平成20年度事業体系 | P 5 |
| I 本部事業 | P 6 |
| II キッズクラブ事業 | P 1 1 |
| III 指定管理施設事業 | P 1 7 |
| 1 横浜市青少年育成センター (P17) | |
| 2 横浜市青少年交流センター (P19) | |
| 3 横浜市野島青少年研修センター (P24) | |
| 4 横浜こども科学館 (P28) | |

I 協約目標の達成

【協約事項1】

| 【協約事項1】 | | | | | | | | | | | |
|---------|---|---|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------|
| 公 | 指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加(4施設各10%以上)を図ります。また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加(10%以上)を図ります。 | | | | | | | | | | |
| | 評価指標の推移(比重) | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 単位 |
| | 青少年交流センター青少年利用者数(全体利用者数)(0.2) | 10,823 (22,697) | 71,705 (117,353) | 78,444 (126,858) | 69,311 (141,246) | 70,000 (142,000) | 72,000 (145,000) | 74,000 (146,000) | 76,000 (147,000) | 78,000 (148,000) | 人 |
| | 野島青少年研修センター利用件数(稼働率)(0.2) | 506 (74.5) | 513 (76.5) | 540 (72.2) | 507 (71.3) | 520 (71.4) | 530 (72) | 540 (73) | 550 (74) | 560 (75) | 利用件数 (稼働率%) |
| | 青少年育成センター利用件数(0.2) | 2,362 | 2,861 | 3,142 (59.3) | 3,229 (55.4) | 3,300 (49.3) | 3,385 (50.2) | 3,470 (51.5) | 3,555 (52.8) | 3,640 (54.1) | 利用件数 (稼働率%) |
| | こども科学館利用団体数(0.2) | 982 | 1,013 | 931 | 968 | 930 | 992 | 1,016 | 1,040 | 1,065 | 団体数 |
| | 放課後キッズクラブ利用率(0.2) | — | — | 42.8 | 50 | 52 | 54 | 56 | 58 | 60 | % |
| ① | 経営課題解決に直結しているか | 施設の充実による利用者の増加、プログラム充実による放課後キッズクラブ事業の利用率の増加は、協会の経営課題解決の基本的な事項です。 | | | | | | | | | |
| ② | 目標が明確かつ具体的であるか | 施設運営、キッズクラブ利用率とも、サービス提供相手をもとに具体的な数値として明確にできる実績値で評価します。 青少年育成センター、青少年研修センターは団体活動支援の場であるため、利用件数を指標とします。また、科学館については平日の利用を促進するために利用団体数を、交流センターは個人への支援の場であるため、利用者数を指標とします。 ※1 野島青少年研修センターの稼働率:利用日数/利用可能日数 ※2 青少年育成センターの稼働率:利用件数/利用可能コマ数 ※3 放課後キッズクラブ利用率:キッズクラブ利用児童数/キッズクラブ設置校の全在籍児童数 | | | | | | | | | |
| ③ | 十分に高い目標水準か | いずれも過去の実績を上回る高い目標水準としています。 青少年交流センターは平成14年12月1日に開館したため、平成14年度のデータは4か月間の数値です。 | | | | | | | | | |

【協約事項1の平成20年度実績】

| 評価指標の推移 | | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | ... | 平成22年度目標 | 単位 |
|-------------|---------|----------|----------|-----|----------|------|
| 青少年交流センター | 青少年利用者数 | 86,618 | 85,934 | ... | 78,000 | 人 |
| | 全体利用者数 | 161,937 | 160,801 | ... | 148,000 | 人 |
| 野島青少年研修センター | 利用件数 | 648 | 613 | ... | 560 | 利用件数 |
| | 稼働率 | 83 | 78.6 | ... | 75 | % |
| 青少年育成センター | 利用件数 | 4,080 | 3,565 | ... | 3,640 | 利用件数 |
| | 稼働率 | 61 | 61.5 | ... | 54.1 | % |
| こども科学館 | 利用団体数 | 1,106 | 1,149 | ... | 1,065 | 団体数 |
| 放課後キッズクラブ | 利用率 | 54 | 54 | ... | 60 | % |

【協約事項2】

| 【協約事項2】 | | | | | | | | | | | |
|---------|---|---|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------------------|
| 公 | 青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上(コーディネート件数63%以上)、青少年指導者等への講座の参加者数を380人以上とします。 | | | | | | | | | | |
| | 評価指標の推移(比重) | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 単位 |
| | 青少年の自立支援事業(0.4) | — | — | — | — | — | 1 | 2 | 3 | 4 | 実施事業数 |
| | 青少年の体験活動の充実(0.3) | — | — | — | 88 | 300(59) | 325(60) | 350(61) | 375(62) | 400(63) | 相談件数(コーディネートできた件数%) |
| | 青少年指導者等の活動支援(0.3) | — | — | — | — | 300 | 330 | 340 | 370 | 380 | 講座参加者数 |
| ① | 経営課題解決に直結しているか | 自立支援事業は、今後、市と連携し取り組んでいくべき重要なテーマです。 青少年の体験活動の充実及び青少年指導者等の活動支援は、青少年プランの推進を目的とする協会の重要な役割です。 ①青少年の自立支援事業 若年無業者の保護者を対象とした講座の開催や学齢期児童の就労体験事業など、青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動等を、市内の若者自立支援の専門機関・団体と連携して実施 ②青少年の体験活動の充実 青少年の体験活動やボランティア活動への相談・コーディネートによる支援 ③青少年指導者等の活動支援(ボランティア情報スポット) 青少年指導者・育成者等を対象とした講座の開催、活動プログラムや活動情報の提供等による支援 | | | | | | | | | |
| ② | 目標が明確かつ具体的であるか | 青少年の自立支援事業については、今後、市と調整を図りながら、具体的な実施事業を検討・決定します。 青少年の体験活動の充実及び青少年指導者等の活動支援については、ともに明確で具体的な数値目標を設定しています。 | | | | | | | | | |
| ③ | 十分に高い目標水準か | 協会の重点課題を解決するための事業を充実していくことは、今後の協会の意義を示す十分な目標です。 | | | | | | | | | |

【協約事項2の平成20年度実績】

| 評価指標の推移 | | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | ... | 平成22年度目標 | 単位 |
|--------------|-----------|----------|----------|-----|----------|------|
| 青少年の自立支援事業 | 実施事業数 | 4 | 6 | ... | 4 | 事業数 |
| 青少年の体験活動の充実 | 相談件数 | 333 | 454 | ... | 400 | 利用件数 |
| | コーディネート件数 | 61 | 68 | ... | 63 | % |
| 青少年指導者等の活動支援 | 講座参加者数 | 432 | 636 | ... | 380 | 参加者数 |

協会の運営

【協約事項3】

| 【協約事項3】 | | | | | | | | | | | |
|---------|------------------------------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 公 | 施設利用者及び事業参加者の満足度(目的達成率)を86%以上とします。 | | | | | | | | | | |
| | 評価指標の推移 | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 単位 |
| | 施設利用者及び事業参加者の満足度(目的達成率) | — | — | — | — | — | 80 | 82 | 84 | 86 | 達成率% |
| ① | 経営課題解決に直結しているか | 施設利用者及び事業参加者の満足度(目的達成率)は、施設及び事業の効率的・効果的な運営・実施を実現するための重要な指標です。 施設利用者及び事業参加者を対象としたヒアリングやアンケート、参加後の振り返り、ホームページを活用した調査など、様々な手法で満足度(目的達成率)を調査します。 | | | | | | | | | |
| ② | 目標が明確かつ具体的であるか | 具体的な数値目標を設定しています。 アンケート結果等の評価を運営へ反映させることにより、事業参加者の満足度(目的達成率)を上げていきます。 | | | | | | | | | |
| ③ | 十分に高い目標水準か | 市民が多様な価値観や目的で施設を利用し、また、事業に参加する中、満足度(目的達成率)80%台を維持することは、高い目標水準と言えます。 | | | | | | | | | |

【協約事項3の平成20年度実績】

施設利用者、入館者へのアンケート調査をはじめ講座・研修会終了後に「ふりかえりの時間」を設け個々の目的達成度を把握し、要望や提案などを事業に反映するなど、事業参加者の満足度向上に努めました。

| 評価指標の推移 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | … | 平成22年度目標 | 単位 |
|--------------------------|----------|----------|---|----------|----|
| 施設利用者、及び事業参加者の満足度(目標達成率) | 89.5 | 93 | … | 86 | % |

【協約事項4】

| 【協約事項4】 | | | | | | | | | | | |
|---------|--|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----|
| 公 | ホームページへのアクセス数を130(指数)以上とします。また、利用者の声の一層の反映を図ります。 | | | | | | | | | | |
| | 評価指標の推移(比重) | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 単位 |
| | アクセス数(0.6) | — | — | — | — | 検討 | 100 | 110 | 120 | 130 | 指数 |
| | 利用者の声の反映(0.4) | — | — | — | — | — | 検討・実施 | 実施・検証 | 実施・検証 | 実施・検証 | — |
| ① | 経営課題解決に直結しているか | 青少年育成に関する情報提供の拡充は、市民との協働や市民の参画により青少年育成を推進することを目指している協会にとっての課題であり、運営情報を公開し透明性を図ることは、市民の協会への理解に繋がります。 利用者の意見を運営に積極的に反映させることで、様々な角度からサービスの充実を図ることができます。 | | | | | | | | | |
| ② | 目標が明確かつ具体的であるか | ホームページで提供する有用な情報がどの程度利用されたかを示す指標として、平成19年度のアクセス数を100とし、その数値の割合を指数として目標に設定しています。 受け取る側のニーズを反映した情報提供方法の検討やガイドライン策定に取り組むプロジェクトを設置し、インターネットによる情報提供を充実する仕組みを構築します。 施設利用者や事業参加者からの意見・要望等を的確に捉える仕組みを検討し、実施・検証します。 ※ アクセス数: 青少年育成活動情報など、協会ホームページ内の重要ページの読み出し回数 | | | | | | | | | |
| ③ | 十分に高い目標水準か | アクセス数を平成19年度比30%増加させるためには、新規コンテンツの増加、ページ内容の充実等、様々な取組が必要であり、高い目標と考えます。 利用者の声を施設運営や事業内容に反映させることは、協会運営の健全化・活性化に不可欠な取組です。 | | | | | | | | | |

【協約事項4の平成20年度実績】

情報紙のWEB版掲載し、横浜の青少年施策の動向や青少年が抱える課題、及び協会が目指す青少年育成について、広く市民が情報を取得できるよう努めました。さらに「施設の情報を充実させてほしい」という声を反映し、指定管理施設ごとのページ開設に向けた準備をすすめました。

また、アクセス数の指標となる重点ページを、青少年のみならず保護者や育成者・指導者など幅広い層が対象となる「イベント・講座情報」に定めました。平成19年度のアクセス数を100とし、平成20年度は、更新頻度をあげ、ホットな情報を提供するなど内容の充実に努めました。

| 指標となるページ | 平成19年度実績(実数) | 平成20年度実績【実数】 | … | 平成22年度目標 | 単位 |
|----------------------|--------------|--------------|---|-------------|----|
| はまユース/イベント・講座情報INDEX | 100 (4,562) | 117 (5,341) | … | 130 (5,930) | 指数 |

【協約事項 5】

| 【協約事項5】 | | | | | | | | | | | |
|---------|-------------------|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----|
| 財 | 自主財源比率を30%以上とします。 | | | | | | | | | | |
| | 評価指標の推移 | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 単位 |
| | 自主財源比率 | — | — | — | 23 | 26 | 29 | 30 | 30 | 30 | % |
| ① | 経営課題解決に直結しているか | 経費の削減及び、利用料金、事業収入、会費収入、ボランティア育成基金などの自主財源の確保を図り、協会の使命を遂行するための事業を推進することは、経営課題に直結しています。 | | | | | | | | | |
| ② | 目標が明確かつ具体的であるか | 具体的な数値目標を設定しています。 ※ 自主財源比率=B/A A=協会の総収入(放課後キッズ補助金・委託料を除く) B=A-市からの補助金・委託料(放課後キッズ補助金・委託料を除く) | | | | | | | | | |
| ③ | 十分に高い目標水準か | 指標については、過去の実績と比較し、高い目標水準です。 | | | | | | | | | |

【協約事項 5 の平成 20 年度実績】

目標達成に向け、利用料金、事業収入、会費収入、ボランティア育成基金などの自主財源の確保を図りました。平成 20 年度は特に、利用料金、事業収入が増加しました。

| 評価指標の推移 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | … | 平成22年度目標 | 単位 |
|---------|----------|----------|---|----------|----|
| 自主財源比率 | 30 | 35 | … | 30 | % |

※ 平成 20 年度自主財源比率

$$(A) 743,671,141 = \text{協会の総収入} - \text{キッズ受託収入} - \text{キッズ補助金} \\ = 1,008,505,741 - 25,469,000 - 239,365,600$$

$$(B) 262,338,141 = \text{指定管理料} + \text{事務局補助金} \\ = 743,671,141 - 421,316,000 - 60,017,000$$

$$\text{自主財源比率 } 0.35 = (B) 262,338,141 \div (A) 743,671,141$$

【協約事項 6】

| 【協約事項6】 | | | | | | | | | | | |
|---------|--|--|--------|--------|--------|----------------|--------|------------------|----------------|----------|----|
| 業 | 職員の意欲を引き出し、事業の充実や職員のスキルアップを図ることのできる新たな組織・人事給与制度を導入します。 | | | | | | | | | | |
| | 評価指標の推移 | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 単位 |
| | 新たな組織・人事給与制度の導入 (人材育成、人事考課制度の導入) | — | — | — | — | 検討チーム 設置・実施 | 給与制度改定 | 給与制度への管理職の人事考課導入 | 給与制度への職員人事考課導入 | 検証・検討・改善 | — |
| ① | 経営課題解決に直結しているか | 自主・自立性の高い組織を目指す協会にとって、職員の能力開発や資質・意欲向上を図ることは重要な課題です。 | | | | | | | | | |
| ② | 目標が明確かつ具体的であるか | 平成18年度に設置した組織・人事給与検討委員会の提言に基づく組織・人事給与制度の導入を指標として定めます。 | | | | | | | | | |
| ③ | 十分に高い目標水準か | 非成長・拡大の社会情勢に対応するため、人事考課制度をはじめとした新たな組織・人事給与制度を導入することは、協会の急務の課題です。 | | | | | | | | | |

【協約事項 6 の平成 20 年度実績】

組織・人事給与検討委員会の提言をもとに平成 19 年度に行った組織改革を更に進めました。給与制度に関しては、管理職への MBO を本格的に実施しましたが、給与の具体的改善には及びませんでした。

また、職員研修や職場研修 (OJT) を充実し、人材育成に努めました。

協会の運営

Ⅱ 組織強化

1 組織改革

管理職による「組織・人事給与改革委員会（H19）」から提言された「年次別の組織改革案」をもとに、新法人への移行準備や次期指定管理者獲得の課題を中心に検討し、本部機能を強化する事務局組織改革を更に進めました。

【新旧事務局組織表】

| 平成20年度（53人）市派遣：0人 市OB：4人 再雇用：1人 固有職員：24人 有期・嘱託職員：24人 | | 【凡例】 |
|--|---------------------------------------|---|
| 専務理事 （事務局長） 市・局区長級OB | 総務企画部（7人） 市OB1、再雇用1、固有5 | 《総務企画部長》 《総務課長》①②(欠) 《企画営業課長》①②(欠) |
| 職員数は欠員を含みません。 | 施設管理部（13人） 固有6、有期7 | 《施設管理部長》 《育成センター長》①② 《交流センター長》①① 《研修センター長》①②③④ |
| | 子ども科学館担当部（27人） 固有12、有期13、OB嘱託2 | 《担当部長》 《管理課長（部長兼務）》①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ 《担当課長》① 《事業課長》①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ 《天文課長》①②③④ |
| | 放課後児童育成推進部（5人） 市OB2、固有1、有期2 | 《推進部長》 《研修課長》②① 《運営課長》① |
| 平成21年度（51人）市派遣：0人 市OB：4人 再雇用：1人 固有職員：22人 有期・嘱託職員：24人 | | |
| 専務理事 （事務局長） 市・局区長級OB | 総務企画部（10人） 市OB1、再雇用1、固有8 | 《総務企画部長》 《総務課長》①②③ 《総務企画部担当課長》 《企画営業課長》①②③ |
| 職員数は欠員を含みません。 | 施設管理部（13人） 固有6、有期7 | 《施設管理部長》 《育成センター長》①② 《交流センター長》①① 《研修センター長》①②③④ |
| | 子ども科学館担当部（22人） 市OB1、固有6、有期13、OB嘱託2 | 《担当部長》 《管理課長》①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ 《事業課長》①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ |
| | 放課後児童育成推進部（5人） 市OB1、固有2、有期2 | 《推進部長（欠員）》 《研修課長》① 《運営課長》①① |
| | | ア 子ども科学館担当部を、管理課と事業課の2課制としました。 イ 新たに、新法人移行、及び指定管理者獲得のため、総務企画部に担当課長を置き本部機能を強化しました。 |

2 事業評価委員会による事業評価（PDCAサイクルの充実）

協会事業を内部、及び外部双方から客観的な視点で評価し、その結果を反映し事業を改善していくことを目的として、各職場で実施した事業評価をもとに、青少年育成に理解のある外部委員による評価をいただきました。

(1) 事業評価の流れ

| 時期 | 項目 | 内容 |
|----------|---------------|--------------------------|
| 平成20年12月 | 協会：評価方法確認 | 評価項目、及び評価方法、評価スケジュール 他 |
| 平成21年 2月 | 協会：ヒヤリング | 協会4施設の管理職、及びセンター長へのヒヤリング |
| 平成21年 2月 | 協会：自己評価実施 | 各課の取り組みをまとめたものを委員へ送付 |
| 平成21年 3月 | 委員会：事業評価委員会開催 | 提言に対する平成20年度の協会の取り組みへの評価 |
| 平成21年 3月 | 協会：事業計画案作成 | 評価を反映させた平成21年度事業計画案作り |

(2) 事業評価委員会開催：平成21年3月16日（月）

3 職員研修の充実

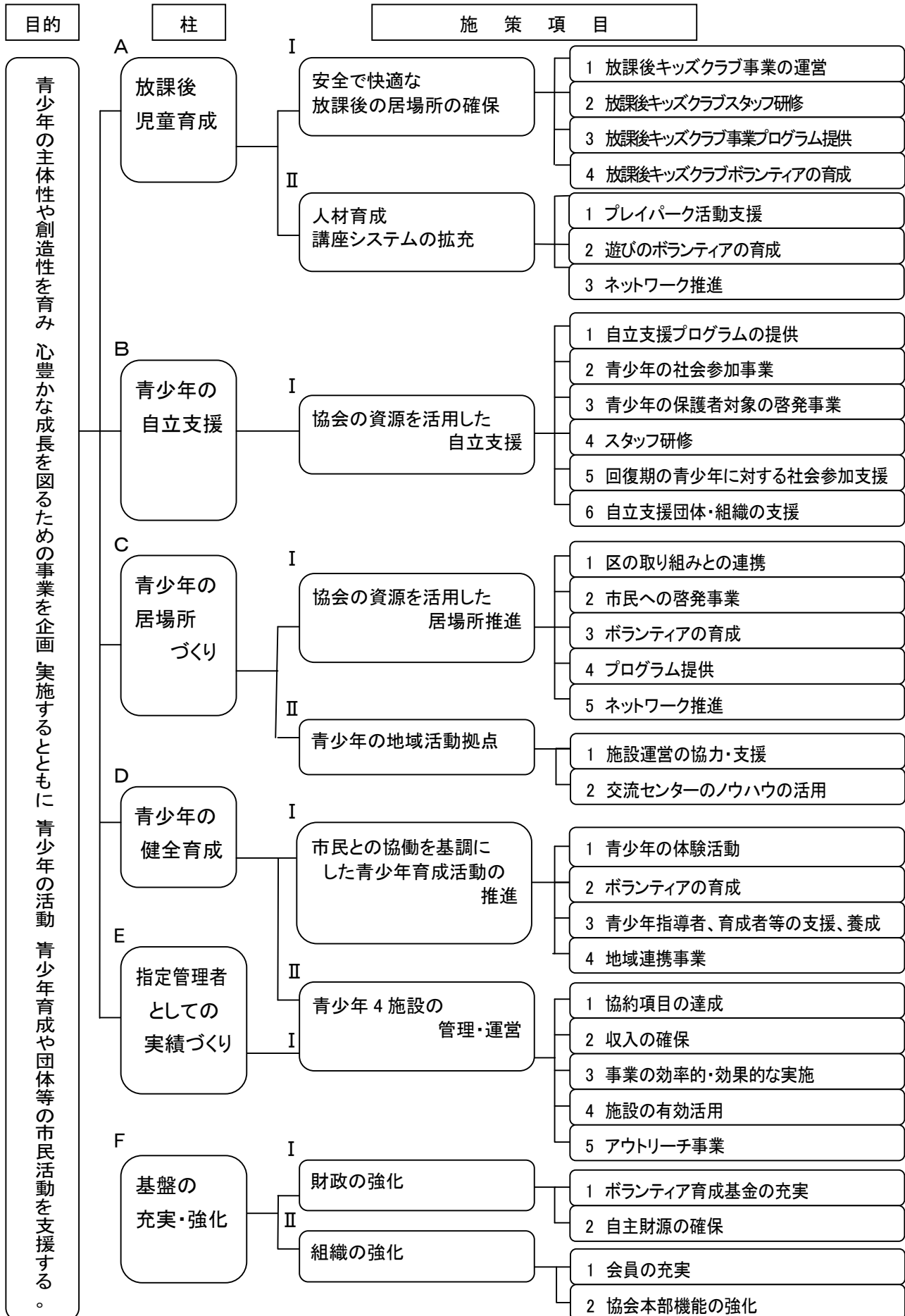
職員の資質向上をめざし、外部研修への職員の積極的な参加を図るとともに、時給職員を含む全職員を対象とした人権研修（前期3回、後期3回）や各職場単位での個人情報保護研修、職員研究交流集会を実施した他、OJTを充実しました。

(1) 協会が実施した主な職員研修

| 研修項目 | 内容 | 対象と開催回数 |
|-----------|---|----------------------------|
| 人権研修 全体研修 | 〈前期〉職業差別について 〈後期〉子どもの人権（今どきの子どもや保護者への今どきの対応） | 時給職員含む職員全員が必須 前・後期各3回実施 |
| 人権研修 職場単位 | 課単位でテーマを設けた人権啓発研修 | 課で最低1回以上実施（キッズ20カ所含む） |
| 個人情報保護研修 | 個人情報の取り扱いについて | 課で最低1回以上実施（キッズ20カ所含む） |
| 職員研究交流集会 | 平成21年度事業、及び執行体制について 他 | 職員対象に年1回実施 |

(2) その他：課内会議や担当者会議を有効に活用し、OJTによる職場内研修を実施しました。

平成20年度事業体系



| 事業名（本部事業） | 区分 |
|--|-----|
| <p>1 青少年の自立支援に関する事業</p> <p>青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動を、市内の若者自立支援の専門機関、団体、及び協会が管理・運営する青少年4施設と連携し実施しました。</p> <p>(1) 青少年の職業体験の受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流センター夏期インターンの受入 4人 14日間（大学生） ・ 研修センターインターンの受入 3人 14日間（大学生） ・ こども科学館学芸員実習生の受入 12人 10日間（大学生） <p>(2) 学齢期児童への職業観の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流センターで法政大学の学生が小学生に対して、将来について考えるための「ジョブ・カフェ」を開催（交流） ・ 親子で横浜マイスターである西洋料理シェフとともに買い物やディナー作りなどを行う「食育キャンプ」を開催（野島） <p>(3) 社会体験活動の推進（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生と進路相談や大学の情報等を語り合う場「キャリアカフェ」を開催（交流） ・ 大学向けの外資系企業人との交流の場「ふりふらジョブ・カフェ」を開催（交流） <p>(4) 啓発講座の実施（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害支援者のためのネットワークセミナー（発達障害者支援センターと共催） ・ 若者自立支援講座の開催（K2インターナショナル、横浜市と協働） <p>(5) 「若者自立サポート」（自立支援関係団体の宿泊体験受け入れ）（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野島研修センターを拠点にした社会貢献活動の実施（ユースポート横濱と協働） ・ 自立支援に向けた宿泊活動の支援（K2インターナショナル、相談センターと協働） | B-I |
| <p>2 青少年の体験活動の充実に関する事業</p> <p>ボランティア活動をはじめ、自然、就業、科学等の青少年の体験活動・学習についての相談・コーディネート、活動情報の収集・提供を通じて青少年に関わるボランティアの裾野を広げることを目的として、「青少年体験活動推進コーナー」の運営を行いました。</p> <p>(1) 小学校宿泊体験学習におけるボランティア紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアへの説明会：11回開催 ・ 登録ボランティア数：60人 依頼件数：74件 成立件数：28件 活動者数：43人 <p>(2) 他機関・団体とのネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県教育委員会の地域ボランティアエアポート <ul style="list-style-type: none"> 高校生のボランティア活動推進を目的に設置された、地域ボランティアエアポート18か所の一つとして高校生を対象としたボランティア活動コーディネート、活動体験事業の開催 ・ その他 <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学ボランティア支援室の運営支援（企画相談、調整、研修 他） | D-I |

| 事業名（本部事業） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>3 協会パンフレット「よこはまユースカタログ」の作成・活用（新規）</p> <p>協会の役割や取り組みを集約し、その資源（人、専門性、ノウハウ、実績等）についてパンフレットを作成・配布し、行政、学校、PTA、子ども会等関係団体、企業等に青少年育成への協会の取り組みについて理解を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成協会新パンフレットの作成 3,000部 ・ 協会PR用データの収集・整理 | D-I, II, E-I |
| <p>4 青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」の発行</p> <p>青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」を通じて、青少年育成活動に従事している人や、これから取り組もうとしている人に対しても、協会が取り組んでいる活動や考え方を伝えるとともに、青少年育成活動の専門的な情報を発信しました。</p> <p>発行部数：10,000部／回（年4回：6月、10月、1月、3月）</p> <p>配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内公共施設、駅PRボックス 他</p> <p>主な内容：生活力を育む／悩みを成長のきっかけに／サイエンスを見つけよう／青少年を地域で育てる 青少年の課題「フリーター・ニート」についての連載記事</p> | C-I, D-I |
| <p>5 協会広報紙「はまユース情報」の発行</p> <p>協会主催・共催事業、協会の管理・運営施設での事業を広く周知し参加者の増加を図るとともに、協会の取り組みへの理解を図りました。</p> <p>発行部数：9,500部／回（年6回：4月、6月、8月、10月、1月、3月）</p> <p>配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内公共施設、駅PRボックス 他</p> | D-I, II, E-I |
| <p>6 協会ホームページの充実</p> <p>情報紙のWEB版掲載し、横浜の青少年施策の動向や青少年が抱える課題、及び協会が目指す青少年育成について、広く市民が情報を取得できるよう努めました。さらに「施設の情報を充実させてほしい」という声を反映し、指定管理施設ごとのページ開設に向けた準備を進めました。</p> | D-I, II, E-I |
| <p>7 子どもの遊びサポート事業</p> <p>プレイパークをはじめとする、集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育てていく”遊びの場”に関わるボランティア育成に、特定非営利活動法人「横浜にプレイパークを創ろうネットワーク（YPCネット）」と協働して取り組みました。また、洋光台まちづくり協議会が試行的に実施した洋光台ミニプレイパーク活動を支援しました。</p> <p>(1) 遊びのボランティア育成研修2008 9月9日（日）から10月14日（日）の間の3日間 遊び場についてのワークショップや講義、プレイパークでの実習 参加者数：77人</p> <p>(2) フォローアップ研修 10月28日（日） 子どもとの関わりにおいて大切な視点や姿勢について研修 参加者数：20人</p> <p>(3) スキルアップ研修 12月1日（土） 野外で役立つロープワークのスキルを身につける実習 参加者数：19人</p> <p>(4) 洋光台ミニプレイパークの運営支援 12月11日（木）、2月12日（木）、3月12日（木） こども科学館に隣接した洋光台駅前公園で3回開催された、洋光台ミニプレイパーク活動を支援しました。</p> | A-II |

協会の事業

| 事業名（本部事業） | 区分 |
|---|-----|
| 8 学校地域と連携した地域人材の活用システム事業の推進 中学校における地域人材の活用について、モデル校での実践を通じて、地域が生徒を見守る体制を作るとともに、他校への普及を図るため、広くこの実践の成果をPRしました。 (1) 地域交流事業 横浜市立十日市場中学校の生徒と地域の「顔の見える関係」づくりを推進するため、地域（学区）の方や団体、学校、PTA、緑区役所、育成協会による「十日市場中学校・地域交流事業実行委員会」で中学生の地域活動参加プログラムを実施 ① 地域交流会「たき火の会」 参加者43人（中学生23人、地域の大人20人） ② 夏の交流事業「夏ボラしようぜ！」 8団体受入 参加中学生延べ150人 ③ 冬の交流事業「冬ボラしようぜ！」 5団体受入 参加中学生延べ42人 ④ 春の交流事業「春ボラ」 4団体受入 (2) 地域交流事業実行委員会 開催日：5月12日(月)、6月12日(月)、10月3日(金)、2月6日(水)（全4回） | D-I |
| 9 開港150周年記念関連事業 横浜開港150周年に伴い、(財)横浜開港150周年協会、(財)帆船日本丸記念財団・JT B 共同事業体と協働して、青少年の体験活動を目的に「横浜 FUNE プロジェクト 夏休みキャンプ in 帆船日本丸」を開催しました。 開催日：8月5日(火)から6日(水) 1泊2日 会場：日本丸訓練センター、帆船日本丸 参加者数：86人（小学5・6年生61人 青年ボランティアスタッフ25人） 内容：海洋教室（カッターやロープワーク 他）、ダンボール船の作成 | D-I |
| 10 基金委員会 基金募集事業についての企画運営を協議し、基金の拡充を図っていくとともに基金運営についての協議を行いました。 基金委員会の開催：10回 | F-I |
| 11 基金募集事業「爆笑！濱っ子寄席」の実施 基金委員会を中心に、ボランティア育成基金募集のため「第48回爆笑！濱っ子寄席」や基金箱の設置等を行い基金拡大を図りました。 (1) 第48回爆笑！濱っ子寄席 開催日：11月16日（金） 会場：関内ホール 出演者：古今亭八朝、三遊亭歌之介、古今亭志ん五、パッケンマクケン マグナム小林、柳家権太楼、三遊亭楽太郎 入場者：876人 主催：(財)横浜市青少年育成協会 (社)横浜中法人会 共催：(社)横浜青年会議所 横浜市こども青少年局 (2) その他の基金募集事業 ・基金箱の設置 56か所 59個設置 ・基金のPRと協力のお願ひ：協会会員をはじめ多方面に働きかけました。 ・デジカメ講座の開催：全2回 参加者数44人 主にPTAを対象に撮影方法、広報紙等への写真構成 他 | F-I |

| 事業名（本部事業） | 区分 |
|---|------|
| <p>12 野島クリスマスキャンプ（共催）</p> <p>横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒の交流・集団活動の体験の場として、また、青年ボランティアの活動の場として野島クリスマスキャンプを実行委員会と共催で実施しました。</p> <p>開催日：12月13日（土）から14日（日）</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>参加者数：143人（ボランティアを含む）</p> <p>主催：野島クリスマスキャンプ実行委員会</p> <p>その他：事前研修会 11月29日（土）</p> | D-I |
| <p>13 ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル2008（共催）</p> <p>高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進するため、運営支援団体の一員として高校生で構成する実行委員会を支援しました。</p> <p>また、実行委員会事務局を交流センター事務室内に設置し、日常的な事務局支援も行いました。</p> <p>開催日：8月6日（水）</p> <p>会場：横浜アリーナ</p> <p>入場者数：4,900人</p> <p>実行委員会：280人（高校生）</p> | D-I |
| <p>14 不登校・ひきこもり支援団体、組織との協働事業（共催）</p> <p>不登校の児童・生徒を対象とした宿泊事業を横浜市教育委員会と共催で実施し、教育総合相談センターのハートフルフレンドボランティアと協会の青年ボランティアが協働で、児童・生徒の集団宿泊体験への支援を行いました。</p> <p>開催日：11月27日（木）から28日（金）</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>参加者数：160人（日帰り参加者、青少年ボランティア、職員を含む）</p> <p>その他：日帰り企画として「もちつき大会」を実施しました。</p> | B-I |
| <p>15 横浜市立大学医学部現代GPプロジェクト支援（自主事業）</p> <p>横浜市立大学の医学生と看護学生が連携を図り、医療を通じた青少年育成に取り組むことにより、将来の安全な医療現場の環境を作るきっかけとする現代GPプロジェクトを推進するため、横浜市立大学医学部に対して事業実施の相談、アドバイス等の支援を行いました。</p> <p>支援期間：4月から11月 GP参加学生スタッフ30人</p> <p>支援内容：学生スタッフ研修、企画相談・調整、キャンプマネジメント 他</p> <p>(1)「けんこう生活キャンプinみうら」の開催 9月13日、14日 参加者35人（小学生）</p> | D-I |
| <p>16 「協会だより」の発行</p> <p>協会の動きや会員が参加可能な事業等をお知らせし、協会事業への参加、及び協会への理解を推進しました。</p> <p>発行：年6回</p> <p>内容：事業や各委員会活動等の状況など、協会に関する情報提供</p> | F-II |

協会の事業

| 事業名（本部事業） | 区分 |
|--|----------|
| 17 会員交流会 | F-II |
| <p>協会への理解と会員相互の交流を図るため交流会等を実施しました。</p> <p>(1) 新春の集い</p> <p>日 時：1月26日（月）</p> <p>会 場：ホテル横浜ガーデン</p> <p>参加者数：100人</p> <p>内 容：感謝状贈呈、協会の取組の説明、交流、アトラクション 他</p> | |
| 18 事業評価委員会 | D-I |
| <p>協会事業を内部、及び外部双方から客観的な視点で評価し、その結果を反映し事業を改善していくことを目的として、各職場で実施した事業評価をもとに、青少年育成に理解のある外部委員による評価をいただきました。</p> | |
| 19 組織、人事制度、給与等の検討 | F-II |
| <p>管理職による「組織・人事給与改革委員会（H19）」で検討、提案された「年次別の組織改革案」をもとに、新法人への移行準備や次期指定管理者獲得の課題を中心に検討し、本部機能を強化する事務局組織改革を更に進めました。</p> | |
| 20 職員研修の充実 | F-II |
| <p>職員の資質向上や、業務水準の向上を図るための内外研修の充実やスキルの共有。また、職員全体が一同に集まり、相互の事業の成果や課題を発表・検討する「職員研究交流集会」を開催しました。</p> <p>内 容：平成21年度事業、及び執行体制の説明、意見交換会</p> | |
| 21 講師派遣 | D-I, F-I |
| <p>協会の培ったノウハウを広く提供し、青少年の健全育成・ボランティア活動推進を図るため、アウトリーチ事業として講師派遣を行いました。</p> <p>依頼件数：47件</p> <p>派 遣 先：市内外の青少年指導員研修、企業、市内大学、市内高校 他</p> <p>派遣職員：延べ55人</p> <p>主な内容：ボランティア活動の基本・心構え、こどもログハウス新任スタッフ研修、コミュニケーション研修、青少年育成活動、青少年との関わり 他</p> | |

Ⅱ キッズクラブ事業

1 放課後キッズクラブの運営

(1) 開設状況

協会の運営する20か所の放課後キッズクラブでは、在籍児童の54.1%(20校の平均値)が登録しました。

この1年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,482人、総計340,898人が利用し、各放課後キッズクラブで実施したプログラム数は、毎月平均約22回、年間総計5,150回でした。

《平成19年度までの開設》18か所

| 区名 | 学校名 (小学校) | 在籍 人数 | 登録 人数 | 参加者数 | プログラム 実施数 | 特色ある主なプログラム内容 |
|-----|--------------|----------|----------|--------|--------------|---|
| 南区 | 太田 | 337 | 243 | 21,728 | 295 | キャンプ/バドミントン/料理会/音楽会/手芸/木工/ペットボトル工作/花火/もちつき/読み聞かせ/おやつ作り/ドッジボールクラブ/サッカークラブ 等 |
| 港南区 | 港南台第三 | 330 | 209 | 13,996 | 239 | 科学実験/手品/バルーンアート/将棋・囲碁/木工/プレイパーク/ハワイアン・キルト/工作/ドッジボール/ハンドメイドクラブ/ランチ作り/漢字検定 等 |
| 旭区 | 笹野台 | 622 | 383 | 20,280 | 480 | 科学実験/折り紙/壁アート/手芸/万華鏡/リサイクル工作/発明クラブ/木工/染め物/ミサンガ作り/スポーツ・チャンバラ/ドッジボール/お話し会 等 |
| 金沢区 | 能見台 | 619 | 333 | 24,139 | 334 | テニス/英語でアート/科学実験/紙すき/キッズ緑日/スポーツ・チャンバラ/工作/手芸/紙芝居/段ボール・ハウス/トーンチャイム/ラッピング講座 等 |
| 緑区 | 長津田 | 455 | 241 | 14,349 | 241 | 昔遊び/ステンドグラス/科学実験/読み聞かせ/編み物/ドッジボール/将棋/カレンダー作り/ペットボトル工作/ミニ運動会/楽器づくり/バドミントン 等 |
| 都筑区 | 折本 | 655 | 288 | 19,035 | 206 | 絵本/将棋/科学工作/手品/リース作り/編み物教室/年賀状づくり/フラダンス/星空観察/バドミントン/勾玉づくり/水遊び/キッズに泊ろう 等 |
| 戸塚区 | 秋葉 | 611 | 369 | 20,052 | 290 | 昔遊び/カブラ/中学生と遊ぼう/絵画体験/キャンプ/押し花/スケート/ミサンガ作り/スポーツ・チャンバラ/スイカ割り/バドミントン/フラダンス 等 |
| 瀬谷区 | 南瀬谷 | 873 | 424 | 23,480 | 255 | 絵はがき教室/ケアプラザ訪問/お話し会/バドミントン/サッカークラブ/宿泊体験/凧づくり/農園/カレンダー作り/工場見学/カブトムシ観察 等 |
| 鶴見区 | 寺尾 | 664 | 297 | 18,608 | 295 | お花見/まち探検/暑中見舞い/合気道/スケート/茶道/初詣/トスペース/ドッジボール/カブラ/卓球/運動会/切り絵/稲作り観察/万華鏡づくり 等 |
| 西区 | 宮谷 | 862 | 504 | 22,854 | 260 | キッズ緑日/卓球/バドミントン/和紙染め/楽器作り/鏡開き/工作/ドッジボール/水墨画教室/トテムポール作り/科学実験/フラダンス/生け花 等 |
| 中区 | 本町 | 539 | 337 | 21,450 | 286 | 編み物/壁画アート/工作/緑日/バルーンアート/ギター教室/手芸/卓球/ドッジボール/望遠鏡作り/ブーメラン作り/オセロ大会/バター作り/梨狩り 等 |
| 磯子区 | 岡村 | 411 | 250 | 18,334 | 207 | 昔遊び/シャボン玉/野菜づくり/夏祭り/ミサンガ/リサイクル工作/グランドゴルフ/ドッジボール/壁画アート/ミニサッカー/折り紙教室/バドミントン 等 |
| 港北区 | 日吉南 | 566 | 339 | 15,769 | 230 | キッズ工房/ステンドグラス/ドッジビー/ピンゴ大会/凧づくり/万華鏡づくり/横浜FCと遊ぼう/読み聞かせ/AED親子講習/カブラ/地域クリーン活動 等 |
| 青葉区 | すすき野 | 480 | 335 | 16,903 | 259 | 勾玉づくり/折り紙検定/バスケットボール/グランドゴルフ/科学実験/シャボン玉/サンマ炭火焼/バドミントン/夏祭り/指あみ/百人一首/将棋・囲碁 等 |
| 栄区 | 桜井 | 394 | 254 | 12,914 | 244 | 紙芝居/囲碁・将棋/手芸/ニューススポーツ教室/キャンプ/工作/ドッジボール/昔遊び/キッズ緑日/ミュージック・ベル/バスケットボール/花火大会 等 |
| 都筑区 | 荏田東第一 | 439 | 213 | 10,315 | 246 | 切り絵教室/キッズ緑日/編み物/地域探検/工作/プレイパーク/スライム/花火大会/すもう/ドッジボール/せみとり/スイカ割り/カブラ/一輪車 等 |
| 戸塚区 | 名瀬 | 615 | 310 | 16,847 | 273 | 折り紙/ドッジボール/昔遊び/散歩/カブラ/キッズ探検/読み聞かせ/川遊び/壁画アート/手芸/土偶づくり/キッズ緑日/科学実験/茶道/将棋教室 等 |
| 神奈区 | 浦島 | 469 | 222 | 14,649 | 195 | 折り紙/ドッジボール/昔遊び/散歩/カブラ/キッズ探検/読み聞かせ/川遊び/壁画アート/手芸/横浜FCと遊ぼう/3B体操/ドミノ/けん玉検定 等 |

協会の事業

《平成20年度新規開設》2か所 ※平成20年9月開設

| 区名 | 学校名 (小学校) | 在籍 人数 | 登録 人数 | 参加者数 | プログラム 実施数 | 特色ある主なプログラム内容 |
|-------|--------------|----------|----------|-------|--------------|---|
| 保土ヶ谷区 | 権太坂 | 646 | 226 | 7,694 | 181 | 看板づくり/ドッジボール/トススペース/オセロ大会/横浜FCと遊ぼう/キッズ農園クラブ/窓ガラスアート/工作/編み物/クリスマス会/お菓子の家づくり等 |
| 金沢区 | 瀬ヶ崎 | 517 | 232 | 7,502 | 134 | カレンダー作り/地域探検/ドッジボール/カブラ/演劇部/工作/編み物/応援団活動/出張映画館/高学年の折り紙教室/お菓子の家づくり/環境保護活動等 |

2 研修等の実施

横浜市子ども青少年局放課後児童育成課が実施している放課後三事業（はまっ子ふれあいスクール285か所・放課後児童クラブ（学童保育）179か所・放課後キッズクラブ64か所）合計528か所のスタッフを対象とした85講座の研修を企画・運営し、1,971人が参加しました。

| 事業名（放課後児童育成推進） | 区分 |
|--|-----|
| 1 放課後児童育成に携わる放課後三事業の全スタッフを対象とした研修 | A-I |
| <p>(1) 心肺蘇生法 開 催：6月5日（木）技能文化会館 参加者：71人 内 容：「基礎知識について学ぶと共に、ダミーを用いた実技を行う」</p> <p>(2) 包帯・止血法 開 催：6月13日（金）技能文化会館 参加者：106人 内 容：「基礎知識について学ぶと共に、実技を行う」</p> <p>(3) 特別な配慮を要する児童の理解（同一内容 2回） 開 催：①6月19日（木）技能文化会館 ②6月24日（火）育成センター 参加者：①106人 ②78人 内 容：「障害の種類・特性について理解し、基本的な対応を学ぶ」</p> <p>(4) 安全管理（同一内容 2回） 開 催：①6月26日（木）県民サポートセンター ②7月7日（月）育成センター 参加者：①134人 ②76人 内 容：「子どものケガ・病気への対処法を学ぶ」</p> <p>(5) 防犯教室 開 催：7月10日（木）技能文化会館 参加者：109人 内 容：「日常の防犯対策と児童の誘拐防止について学ぶ」</p> <p>(6) 子どもたちの食生活と食育 開 催：7月15日（火）技能文化会館 参加者：122人 内 容：「子どもの食育について学ぶ」</p> <p>(7) 障害児対応中級研修（同一内容 3回） 9月16日（火）育成センター 参加者：18人 9月25日（木）育成センター 参加者：28人 9月30日（火）育成センター 参加者：26人 内 容：「知的障害・自閉症児等への対応について、グループディスカッションを通して学ぶ」</p> | |

| 事業名（放課後児童育成推進） | 区分 |
|--|-----|
| <p>(8) 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由児の理解 開 催：9月18日（木）育成センター 参加者：32人 内 容：「一般的な視覚・聴覚障害、肢体不自由児の特徴と基本的な対応方法」</p> <p>(9) 障害児対応にかかる専門研修（3回連続講座＋希望者実習） 開 催：①10月9日（木）育成センター ②10月16日（木）育成センター ③11月14日（金）育成センター ④希望者のみ、11月から1月中に各市立保育園で実習 参加者：28人 内 容：①「自閉性障害の理解」 ②「各クラブの事例への対応ワンポイント」 ③「自閉性障害の仮想事例についてグループ討議」 ④ 希望者のみ市立保育園での実習</p> <p>(10) 子どもの人権 開 催：10月21日（火）開港記念会館 参加者：74人 内 容：「児童虐待の実態と基本的な対処法」</p> <p>(11) 個人情報 開 催：10月28日（火）開港記念会館 参加者：51人 内 容：「個人情報の取り扱いの注意点について、具体的事例を基に解説」</p> <p>(12) 室内遊びを楽しむ（同一内容 2回） 11月18日（火）育成センター 参加者：57人 12月2日（火）育成センター 参加者：40人 内 容：「クラフトテープを使ったセパタクロー製作」</p> | |
| <p>2 放課後児童クラブ（学童保育）のスタッフを対象とした研修</p> | A-I |
| <p>(1) 子どもの事故予防（同一内容 2回） 10月31日（金）技能文化会館 参加者：128人 11月20日（木）技能文化会館 参加者：84人 内 容：「事故事例を検証し、回避するための方法や子どもたちへの指導手法を学ぶ」</p> <p>(2) こどもの気持ちを受け止める（同一内容 2回） 1月15日（火）技能文化会館 参加者：128人 1月21日（水）技能文化会館 参加者：84人 内 容：「問題を抱える子どもが発するサインを早期に気づき、指導員として受容し、支援すれば良いのか学ぶ。」</p> <p>(3) 障害児の理解と支援 1月27日（火）技能文化会館 参加者：114人 2月3日（火）第一総業ビル 参加者：38人 2月27日（金）技能文化会館 参加者：130人 内 容：「障害児の置かれている現状や障害児の基本的特性を踏まえた関わり方や支援について学ぶ」</p> | |

協会の事業

| 事業名（放課後児童育成推進） | 区分 |
|---|-----|
| <p>3 放課後キッズクラブのスタッフを対象とした研修（新設、及び既存の放課後キッズクラブ）</p> <p>(1) 放課後キッズクラブスタッフ研修 協会の運営する20か所のスタッフを対象とした15講座の研修を企画・運営し、220人が参加しました。</p> <p>① スキルアップ講座（交流センター） 内 容：「身近にある材料や折紙を使ったクラフト」</p> <p>6月17日（火）七夕飾り(20人) 7月8日（火）クマのストラップ(18人) 9月9日（火）くるくるつばめ(15人) 10月14日（火）ブレスレット(23人) 12月9日（火）クリスマスツリー、枝パークラフト(20人) 1月13日（火）鬼の面(14人) 2月10日（火）お雛様（押し絵風）(19人) 3月10日（火）飾り兜(16人)</p> <p>② 「子どものための安全教育」（同一内容 3回、育成センター） 内 容：「日常的に子どもと接する指導員が、子どもの行動を予知し、子どもにリスクを経験させながら、事故を起こさないための積極的な安全管理を学ぶ」</p> <p>12月4日（木）参加者24人、12日（金）参加者12人、19日（金）参加者14人</p> <p>③ 「障害児対応－自閉性障害を中心として－」（4回連続講座 育成センター）</p> <p>12月12日（金）発達障害の基礎知識と対応の基本 参加者：21人 12月18日（木）大切なワンポイント－事例レポートに応じて－ 参加者：24人 12月24日（水）コンサルテーションの実際－具体的事例を通して－ 参加者：21人 1月23日（金）グループディスカッション－課題事例の検討－ 参加者：21人</p> <p>(2) 新規採用職員の研修（他法人が運営する放課後キッズクラブの職員も対象）</p> <p>① 9月開設キッズスタッフ研修 9月1日（月）に開設した5か所の常勤スタッフに対し、放課後キッズクラブ運営に必要な基礎知識の理解や習得を目的として、新規採用主任指導員、及び指導員27人を対象に7月から8月の2か月間、安全教育等約20項目の研修や既設の放課後キッズクラブや特別支援校での実習を行いました。</p> <p>また、新規採用の補助指導員に対しても、1日研修を2回実施しました。</p> <p>② 3月開設キッズスタッフ研修 平成21年3月2日（月）に開設した11か所の常勤スタッフ22人を対象に、キッズクラブ運営に必要な基礎知識の理解や習得を目的として、1から2月の2か月間、安全教育等約20項目の研修を行いました。</p> <p>また、新規採用の補助指導員に対しても、1日研修を2回実施しました。</p> | A-I |
| <p>4 横浜市の放課後児童育成事業でのボランティア活動を希望する青年を対象とした研修</p> <p>横浜市が推進している放課後三事業（はまっ子ふれあいスクール・放課後児童クラブ（学童保育）・放課後キッズクラブ）でのボランティア活動を希望する青年等を対象とした研修、及び現場での実習を実施しました。（2回連続）</p> <p>開 催：①6月28日（土）育成センター ②7月から8月の夏休み期間 参加者：5人 内 容：①「ボランティア活動の理解」「放課後児童の活動現場についての理解」 ②「ボランティア活動の実際」（実習）</p> | A-I |

3 会議等の実施

協会の運営する20か所の放課後キッズクラブ毎に評議会や保護者会を開催するとともに、放課後キッズクラブ主任指導員、及び指導員の会議を定期的に開催し、情報交換等を行いました。

| 事業名（放課後児童育成推進） | 区分 |
|--|--------|
| 1 評議会 | A-I、II |
| 20か所の放課後キッズクラブ毎に評議会を開催し、委員から様々な意見を伺いました。 開催回数：平成19年度までに開設した放課後キッズクラブの18校は各2回 平成20年度に新規開設した放課後キッズクラブの2校は各1回 | |
| 2 保護者会 | A-I、II |
| 20か所の放課後キッズクラブで総計49回の保護者会を開催し、保護者からの意見や要望を聞く機会を設けました。その他、新規開設した放課後キッズクラブの2か所については、次の通り保護者説明会を開催しました。 (1) 権太坂小学校放課後キッズクラブ 5月19日（月）第1回保護者説明会 放課後キッズクラブの概要説明について 他 7月12日（土）第2回保護者説明会 登録手続きの詳細について 他 (2) 瀬ヶ崎小学校放課後キッズクラブ 5月12日（月）第1回保護者説明会 放課後キッズクラブの概要説明について 他 6月19日（木）第2回保護者説明会 登録手続きの詳細について 他 8月26日（火）第3回保護者説明会 スタッフ紹介、具体的なプログラム内容について 他 | |
| 3 主任指導員会議 | A-I、II |
| 20か所（8月までは18か所）の主任指導員を対象に、精算業務や事務連絡等を含めながら放課後キッズクラブ間での情報交換を行いました。開催回数：14回 | |
| 4 指導員会議 | A-I、II |
| 20か所（8月までは18か所）の指導員を対象に、事務連絡や報告等を含めながら協会内各放課後キッズクラブ間での情報交換を行いました。開催回数：5回 | |
| 5 放課後キッズクラブ主任指導員連絡会 | A-I、II |
| 平成20年度までに開設した放課後キッズクラブ（64か所）に対して、よりよい運営を進めるために、運営法人相互の情報交換が行えるよう16の運営法人を対象とした連絡会議の開催、共同プログラムの企画・実施、運営マニュアル等の作成、及び配布を行いました。 (1)連絡会議 ①第1回 開催：11月21日（金） 参加：48か所・12運営法人が参加 内容：活動プログラムの紹介、登録児童の利用率 他 ②第2回 開催：3月27日（金） 参加：56か所・14運営法人が参加 内容：キッズクラブ事業運営の注意点 研修：児童とのコミュニケーション、平成21年度放課後キッズクラブ事業予算他 | |

協会の事業

| 事業名（放課後児童育成推進） | 区分 |
|--|----|
| <p>(2) 運営マニュアルの作成、及び配布</p> <p>① 安全編</p> <p>横浜市内の各放課後キッズクラブでの安全管理と事故への対応に関して、一定した対応がなされるようにするために、基本的な考え方や事務の流れ等について「マニュアル」を作成し、全キッズ・各運営法人、及び各区役所に配布しました。</p> <p>※ 3月発行（全体30頁綴り）200部作成</p> <p>② 運営編</p> <p>横浜市内の各放課後キッズクラブの運営に関して、できるだけ一定した対応がなされるようにするために、基本的な考え方や事務の流れ等について「マニュアル」を作成し、全キッズ・各運営法人、及び各区役所に配布しました。</p> <p>※ 3月発行（全体158頁綴り）200部作成</p> <p>(3) パンフレットの作成</p> <p>平成21年度に新設される各放課後キッズクラブの運営にあたり、放課後キッズクラブの趣旨等について理解を深めていただくために、既存のパンフレットの内容をより分かりやすく修正し、新しいパンフレットを作成しました。</p> <p>※30,000部作成</p> <p>(4) キッズ対抗ドッジボール大会</p> <p>協会が昨年同様各運営法人に呼びかけ、実行委員会方式にて合同での第3回ドッジボール大会を企画・実施しました。</p> <p>開催日：2月7日（土）</p> <p>横浜市保土ヶ谷スポーツセンターにて17キッズ（3運営法人）による対抗戦を実施しました。なお、低学年の部と高学年の部を設定し28チームが参加しました。</p> <p>参加者：児童378人／スタッフ68人／ボランティア2人 総計448人</p> <p>会場が狭いため、保護者の見学はお断りいたしました。</p> <p>※当日は、高梨乳業からジュース1,272個を提供していただきました。</p> | |

Ⅲ 指定管理事業

1 横浜市青少年育成センター

| 事業名（指定管理事業：育成センター） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>1 ボランティア情報スポット</p> <p>青少年指導者・育成者、NPO等を支援することで、地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮する取り組みを行っています。</p> <p>青少年育成活動に関する情報収集・提供、相談、コーディネートや講座、研修会の開催、ネットワーク支援などを行いました。</p> <p>(1) 情報収集・提供、相談、コーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・提供（“よこはまユースキャラバン”の発行 発行部数：4,500部） 協会4施設とキッズクラブの夏季ボランティアの募集冊子を関係機関で配布 ・相談業務（相談件数：134件） 主な相談内容：ボランティア先の紹介、相談機関紹介（ひきこもり・ニート）など ・活動コーディネート（コーディネート件数：延べ100件） 主なコーディネート：事業企画相談（共催も含む）、講師紹介（講座参加者） 他 <p>(2) 講座・研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急法（AED）講習会（共催）全2回 開催日：①日赤救急法救急員養成講習 11月8日、9日、15日、16日（4日間） ②普通救命講習会 2月15日 参加者数：①日赤救急法救急員養成講習14人、②普通救命講習会13人 運営：救急法講習運営会（受講者OBの会）と共催 ・カウンセリング講習会（共催） 開催日：前期 11月2日、11日、18日、25日、12月2日（5日間） 後期 1月20日、27日、2月3日、10日、17日（5日間） 参加者数：前期25人 後期6人 運営：横浜相談ボランティア研究会（受講者OB）と共催 ・『あぶないからダメ！』という前に～子どもの遊びと安全 遊びにおける事故の発生原因や危機管理の方法などを知り、遊びに潜むリスクとハザードについて、さまざまな場で子どもに関わる大人たちが共通理解を深めました。 開催日：11月8日（土） 参加者数：14人 共催：特定非営利活動法人りんぐりんく ・ファシリテーター入門講座 開催日：10月25日（土） 参加者数：26人 内容：会議を進めるうえでのコツ、意見の引き出し方 ・プレゼンテーション入門講座（NPOマネジメント講座） 開催日：12月3日（水） 参加者数：9人 内容：上手な発表のコツや資料等の作り方 他 | D-I, II, E-I |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：育成センター） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>・ボランティア入門講座</p> <p>①こどものいじめ予防で大人たちにできること 開催日：12月18日(木) 参加者数：21人 内 容：子どもへの暴力防止ワークショップ</p> <p>②野外レクリエーション入門講座 開催日：3月14日(土) 参加者数：12人 内 容：野外活動におけるゲームの手法</p> <p>③子どもに関わるボランティア トク・トク・トークサロン 開催日：5月30日、6月27日、11月26日 参加者数：17人 内 容：ボランティアを受入施設の紹介やスタッフの話、情報交換会</p> <p>・発達障害支援者のためのネットワークセミナー（発達障害者支援センターとの共催） 開催日：平日コース7月24日、9月13日、11月27日 土曜コース7月26日、9月18日、11月29日 参加者数：57人 内 容：発達障害についての講話、福祉サービス等の説明、情報交換会 他</p> <p>・若者自立支援講座（共催） 全3回</p> <p>①保護者向けセミナー 開催日：9月20日(土)、10月4日(土) 参加者数：22人 内 容：発達障害の理解と支援、及び個別相談会</p> <p>②支援者向けセミナー 開催日：1月17日(土) 参加者数：20人 内 容：精神障害理解と対応、及び個別相談</p> <p>③若者向けセミナー 開催日：2月9日(月)から10日(火) 参加者数：28人 内 容：宿泊体験活動を通じたコミュニケーション力の向上や仲間作り</p> <p>(3) ネットワーク支援 青少年指導者NPO交流会で各団体との連携を強化しました。 また、他の専門機関と共催で事業を実施することで関係の強化に努めました。</p> | |
| <p>2 研修室・スタジオ等の貸出</p> | D-I, II, E-I |
| <p>青少年指導者・育成者、及び青少年の活動の場として、研修室、音楽スタジオ、和室を貸し出しました。</p> <p>(1)研修室利用団体数：2,399件 (2)研修室利用人数：39,078人 (3)スタジオ利用団体数：1,166件 (4)スタジオ利用人数：4,526人</p> | |
| <p>3 青少年活動団体の事務局支援機能</p> | D-I, II, E-I |
| <p>団体が活動していくため、印刷機、コピー機の貸出、軽作業の場として活動支援室を提供しました。 利用件数：482件</p> | |
| <p>4 活動物品の貸出</p> | D-I, II, E-I |
| <p>着ぐるみの活動物品の貸出を行い、地域の青少年活動を支援しました。貸出件数：88件</p> | |

| 事業名（指定管理事業：育成センター） | 区分 |
|--|--------------|
| 5 PTA新聞づくり講習会 | D-I, II, E-I |
| <p>PTA広報紙に必要な新聞づくりの基本について、講習と演習、作品コンクール等を行いました。</p> <p>開催日：5月22日、27日、6月2日、10日、24日、11月11日、18日</p> <p>参加者数：309人</p> <p>内容：新聞づくりの基礎習得、作品の添削、コンテスト 他</p> | |
| 6 運営の検証と改善（利用者協議会） | D-I, II, E-I |
| <p>センター利用者、青少年育成活動者、協会職員等で構成する利用者協議会において、施設としての役割を十分果たせるよう、機能の促進、取り組みの検証を行い、効率的・効果的な運営のための見直しを行いました。</p> <p>・利用者アンケートの実施 実施期間 9月15日から10月15日 回答数：127件</p> <p>・青少年指導者NPO交流会 開催日：3月7日、8日 参加者数：43人</p> | |

2 横浜市青少年交流センター

| 事業名（指定管理事業：交流センター） | 区分 |
|--|--------------|
| 1 青少年委員会の運営 | D-I, II, E-I |
| <p>青少年の声を施設運営に活かすとともに、中高生をはじめとした青少年自身の自主活動の中核を担ってもらうよう交流センター開館以来、委員会を設置しています。</p> <p>広報紙の発行など自主企画の定着を図るとともに、子どもを対象とした自主イベントを毎月開催しました。また、センターを利用する青少年が企画する事業や、他のボランティアの活動支援等リーダーとして活躍しました。</p> <p>(1) 青少年委員会の構成：中学生から24歳までの青少年 22人</p> <p>(2) 定例会：12回開催（毎月第2日曜日） 広報紙、イベント企画等の打合せ 他</p> <p>(3) 広報紙の発行「君にふらっと☆」 年3号発行（毎回200部）</p> <p>(4) 青少年委員企画事業</p> <p>①「わいわいおやつタイム」 <萌木の会協力（6月）> 年10回開催 参加者数：71人 ボランティア4人</p> <p>②「納涼！きもだめし大会」 8月30日（土） 参加者数：83人 ボランティア10人</p> <p>③「スポーツ大会」 9月14日（日） 参加者数：14人</p> <p>④「ふりふらdeハロウィン」 10月25日（土） 参加者数：70人 ボランティア10人</p> <p>⑤「かどもっちい〜」 12月23日（日） 参加者数：もちつき130人、門松作り27人、クラフト15人、ボランティア13人</p> <p>⑥「恵方巻を作ろう！」 1月25日（日） 参加者数：16人 ボランティア2人</p> <p>⑦「タイムカプセル〜未来の自分に手紙を書こう」 参加者数：38人</p> <p>(5) 自主研修</p> <p>① 宿泊研修会 第1回 9月20日（土）から21日（日） 参加委員：10人 第2回 3月20日（金）から21日（土） 参加委員：5人</p> <p>② 他都市の青少年との交流（東京都杉並区ゆう杉並中高校生委員会） 11月30日（日） 参加委員：6人、ゆう杉並中高校生委員：7人</p> <p>③ 青少年の居場所づくりフォーラム 2月23日（土）から24日（日） 参加委員：4人</p> <p>④ コミュニケーション研修会 2月28日（土） 参加委員：6人</p> | |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：交流センター） | 区分 |
|--|--------------|
| <p>2 青年ボランティアの育成</p> <p>青少年に子どもを対象としたボランティア活動等の場を提供しました。年齢や学校が異なる青少年や大人と関わり、新たな自分を発見する機会となりました。夏期青年ボランティア（中学生含む）への参加がきっかけとなり、次年度には青少年委員になった青少年もいました。</p> <p>(1) 夏期青年ボランティア（事前説明会、事前研修会、交流会事後研修会 含む） 活動期間：7月27日（日）から9月6日（土） 期間中、各自5から10日間活動 参加者数：43人（高校生から勤労青年）</p> <p>(2) 中学生夏期青年ボランティア【新規】（事前研修会、交流会事後研修会 含む） 活動期間：7月27日（日）から9月6日（土） 期間中、各自2から10日間活動 参加者数：6人</p> <p>(3) 冬期青年ボランティア 活動期間：12月23日（日）から1月12日（月祝） 期間中、各自5日間程度活動 参加者数：1人（高校生）</p> <p>(4) 高校生による道志村水源林ボランティア <横浜市水道局> 活動期間：8月2日（土） 参加者数：34人（高校生）</p> <p>(5) 小学校体験学習ボランティア 活動期間：通年 登録説明会は11回開催 登録者数：60人 派遣依頼：74件、成立28件 活動人数43人</p> | D-I, II, E-I |
| <p>3 ロビーワークの充実</p> <p>ロビーワークの充実のため、施設スタッフのスキルアップ、及び青年ボランティアの導入によるスタッフ体制の充実を図り、居場所としての質的向上を図りました。</p> <p>(1) コーディネーター会議 開催回数：12回（毎月1回） 内 容：ロビーワークについて、フリースペース有効活用について 他</p> <p>(2) 施設スタッフ研修 青少年の居場所づくりフォーラム参加</p> <p>(3) 夏期インターンシップ【新規】 活動期間：7月から9月 期間中、各自14日間 受入者数：4人（大学生）</p> <p>(4) ユースボランティア 活動期間：通年 ※交流センターで日常的に活動 参加者数：3人（高校生から勤労青年）</p> | D-I, II, E-I |

| 事業名（指定管理事業：交流センター） | 区分 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---------|---------|---------|-------|------|----------|---------|------|-----|--|
| 4 場の提供 | D-I, II, E-I | | | | | | | | | | |
| <p>(1) 自主的な活動の場（講座・研修会を含む）</p> <p>青少年の活動拠点としてできる限り制限を設けず会議室、スタジオ等、部屋の貸出しを行いました。また、青少年の自主的な活動の支援、多様な経験ができる講座を行いました。</p> <p>協約目標：年間青少年利用者数 74,000人</p> <table border="1" data-bbox="306 465 1144 568"> <thead> <tr> <th>開館日数</th> <th>全体利用者数</th> <th>青少年利用</th> <th>青少年1日平均</th> <th>貸館稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>347日</td> <td>160,801人</td> <td>85,934人</td> <td>248人</td> <td>63%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※演奏室、スタジオ、多目的室、レクホールにおいては80%の稼働率</p> <p>① 青少年の持ち込み企画の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードゲーム大会2回（小・中学生企画）参加者数：52人 ・バドミントン大会1回（中学卒業生企画）参加者数：12人 <p>② 夏休み事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木工教室：7月27日（日） 参加者数：12人 ・理科教室：7月29日（火）31日（木） 参加者数：30人 ・絵画教室：8月23日（土） 参加者数：9人 ・クラフト教室：8月19日（月） 参加者数：11人<青少年指導者クラブ協力> <p>③ 夏休みこども体験教室【新規】 <ハマふれんど共催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちわ作り、布ぞうり作り、木工 全3回 参加者数：延べ38人 <p>(2) 多様な個別支援の場 / 社会性を身に付ける場</p> <p>ロビーワークを通じた相談対応や、「ふらっとカフェ」、ボランティア活動（青年ボランティアの育成を参照）を通して、青少年の興味に合わせた交流の機会、異年齢の青少年の交流の機会を設けました。</p> <p>① 交流スペース利用者数：42,040人</p> <p>② ふらっと美術館VOL1モンゴル写真展&カフェ【新規】<NGOゆいまーるハミングバズ協力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真展：8月1日（金）から31日（日） ・カフェ：8月30日（土） 参加者数：20人 <p>③ ふらっと美術館VOL2アジア写真展&トークショー【新規】<神奈川IYEO協力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真展：10月1日（水）から19日（日） ・カフェ&トークショー：10月11日（土） 参加者数：13人 <p>(3) 地域や保護者との連携と交流の場</p> <p>施設の利用者同士や地域の大人と出会い相互理解を深めるための交流事業、成果発表会、及び親子で参加できる体験事業等を行いました。</p> <p>① こどもの日まつり</p> <p>開催日：5月5日（月祝）</p> <p>内容：クラフト、お茶教室、アトラクション 模擬店 他</p> <p>参加者数：579人、ボランティア37人</p> <p>② 夏休みドッジボール大会 8月23日（土） 参加者数：35人</p> <p>③ 春の卓球大会 3月30日（月） 参加者数：35人</p> | 開館日数 | 全体利用者数 | 青少年利用 | 青少年1日平均 | 貸館稼働率 | 347日 | 160,801人 | 85,934人 | 248人 | 63% | |
| 開館日数 | 全体利用者数 | 青少年利用 | 青少年1日平均 | 貸館稼働率 | | | | | | | |
| 347日 | 160,801人 | 85,934人 | 248人 | 63% | | | | | | | |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：交流センター） | 区分 |
|--|----|
| <p>④ 横浜アジアンウェーブ【新規】（横浜の留学生と青少年の交流事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道を体験しよう！10月26日(日)、11月23日(日) 参加者数：64人 ・ ギョーザを作ろう！10月18日(土) 参加者数：9人 <p>⑤ テーブルサッカー講習会【新規】 <日本テーブルサッカー協会></p> <p>開催日：7月27日(日) 参加者数：9人</p> <p>⑥ 百人一首大会【新規】 1月10日(土) 参加者数：5人<横浜集会></p> <p>⑦ ふらっとキッズ<おもちゃのはこ></p> <p>開催回数：7回(5月23日、6月27日、9月26日、10月24日、11月28日、1月25日、2月27日 いずれも金曜日)</p> <p>内 容：乳幼児親子の歌や音楽、手遊び 他</p> <p>参加者数：172人</p> <p>⑧ ふりーふらっと音楽コンサート<おもちゃのはこ></p> <p>開催回数：3回(7月12日、12月20日、3月14日 いずれも土曜日) 参加者数：100人</p> <p>⑨ ふりふら劇場<ガクヤG></p> <p>公演回数：5回(9月12日(金)から14日(日)) 参加者数：100人</p> <p>⑩ @楽祭(あつとがくさい)</p> <p>開催回数：2回(6月29日(日)、11月16日(日))</p> <p>内 容：センター利用者の成果発表会</p> <p>参加者数：440人 25団体出演 ボランティア10人</p> <p>⑪ 青少年ライブ</p> <p>開催回数：3回(8月17日(日)、12月21日(日)、3月29日(日))</p> <p>内 容：ライブ企画、バンド発表、ステージ演出 他</p> <p>参加者数：394人 35バンド出演</p> <p>⑫ こども会クラフト教室(地域連携事業)</p> <p>開催回数：2回(7月24日(木)、31日(火))</p> <p>内 容：夏休み工作教室</p> <p>参加者数：94人</p> <p>⑬ チャレンジ親子体験塾「クワガタ研究会」</p> <p>開催回数：5回(5月18日、7月13日、9月21日、12月7日、3月8日 いずれも日曜日)</p> <p>内 容：国産クワガタの飼育教室</p> <p>参加者数：51組 510人</p> <p>⑭ 日韓高校生交流事業【新規】<YMCAアクト></p> <p>開催日：7月28日(月)</p> <p>内 容：日本文化体験(茶道体験、盆踊り体験)交流会</p> <p>参加者数：28人</p> <p>⑮ 水源の森合唱団【新規】</p> <p>活動回数：7回 発表10月7日(火)</p> <p>内 容：コーラス練習、コンサートでの発表</p> <p>参加者数：14人(中学生4人、高校生3人、大学生7人)</p> | |

| 事業名（指定管理事業：交流センター） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>(4) 将来について考える場</p> <p>事業参加やロビーワークを通して、青少年が自分自身を見つめ直し、社会へのつながりを感じられる支援を行いました。また大学生による進路相談会や、企業人による仕事の話等、将来の目標を見つけるきっかけを作る事業を行いました。</p> <p>①「横浜国立大学キャリアカフェ」 <横浜国立大学> 開催回数：3回（6月16日から7月7日、12月10日から17日、1月19日から23日） 内 容：大学生が、大学生活や受験勉強について高校生に語る。 参加者数：73人</p> <p>②「法政大学キャリアカフェ」【新規】 <法政大学> 開催回数：1回（8月6日から8日） 内 容：大学生が、大学生活や受験勉強について高校生に語る。 参加者数：30人</p> <p>③「法政大学ジョブカフェ」【新規】 <法政大学・本町小学校放課後キッズクラブ> 開催日：12月6日（土） 内 容：大学生が、小学生に自分の将来を設計するゲームを実施 参加者数：17人（小学生11人、大学生6人）</p> <p>④「ふりふらジョブカフェ」【新規】 <新日本有限責任監査法人> 開催日：12月7日（日） 内 容：外資系の職員や管理職から、仕事や日本社会などについての講話 参加者数：大学生20人</p> | |
| <p>5 居場所づくりの推進</p> | C-I |
| <p>交流センターの居場所づくりに関するノウハウを共有するために青少年の居場所づくりフォーラムや各区の居場所推進担当職員会議を実施するとともに、区の取り組みとの連携し居場所づくりを推進しました。</p> <p>① 青少年の居場所づくりフォーラム開催 <日本青年都市会議、横浜市と共催> 開催日時：2月21日（土）、22日（日） 参加者数：170人 内 容：公開シンポジウム、情報交換会、交流会、分科会 他 ※横浜市内に設置されている5か所の地域活動拠点と協働で企画・運営しました。</p> <p>② 各区の青少年の居場所推進担当職員会議 こども青少年局と協働で、各区の青少年の居場所推進を担当する職員を対象に、情報交換の機会を提供しました。（2回）</p> <p>③ 区の取り組みとの連携 鶴見区の「まちの力で育む青少年育成モデル事業（生麦プロジェクト）」、及び協会のボランティア育成基金運用事業「学校教育と連携した地域人材活用システム事業（十日市場中学校地域交流事業）」の実施場所の緑区と連携し、青少年の居場所事業を推進しました。 鶴見区生麦プロジェクトは、平成20年度、こども青少年局が推進する青少年の地域活動拠点事業として位置づけられました。</p> | |
| <p>6 運営の検証と改善</p> | D-I, II, E-I |
| <p>センター利用者、青少年委員、ボランティア等の意見やアンケートにより、効率的・効果的な運営の見直しを行いました。</p> <p>アンケートの実施 回答件数：140件 意見内容：スタジオ機器類の不具合に対する意見が多く寄せられました。不具合には、迅速に対応するよう努めました。</p> | |

協会の事業

3 横浜市野島青少年研修センター

| 事業名（指定管理事業：研修センター） | 区分 |
|--|--------------|
| <p>1 集団宿泊体験の場の提供</p> <p>施設の特長を生かし、「自ら直接体験する機会」を、集団宿泊体験を通じて青少年に提供しました。</p> <p>(1) 利用日数：254日（利用稼働率：78.6%）</p> <p>(2) 利用件数：613件 30,485人</p> <p>(3) 宿泊利用日数：208日（宿泊利用稼働率：70.7%）</p> <p>(4) 宿泊件数：420件 21,923人</p> | D-I, II, E-I |
| <p>2 講座・研修会</p> <p>青少年活動団体のリーダーが、プログラムを企画・進行できるような講習会（スキルアップ講習会）や、利用団体を対象とした定期的なワークショップ（横濱野島カリー、クラフト、食育関連、宿泊者向けワークショップ）を開催しました。</p> <p>(1) スキルアップ講習会</p> <p>青少年活動におけるスキルの提供を通じて、青少年団体のリーダーがプログラムの企画進行ができるような講習会を実施しました。</p> <p>① カヌー講習会、アウトドアクッキング</p> <p>会 場：野島公園、野島海岸 他</p> <p>参加者数：36人</p> <p>② 野島ワークショップ</p> <p>利用団体を対象とした食・自然に関するプログラムを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横濱野島カリー 参加者数：3,151人 ・のじぼっくり 参加者数：806人 ・のじたまくん 参加者数：165人 ・バードコール 参加者数：347人 <p>(2) 親子クッキングキャンプ【新規】</p> <p>研修センターにおける食育事業として、横浜マイスターである西洋料理の清水郁夫さんを講師にむかえ、小学4から6年生の親子を対象とした1泊2日のキャンプを実施しました。</p> <p>開 催 日：2月28日（土）から3月1日（日） 1泊2日</p> <p>会 場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園周辺</p> <p>参加者数：10組23人（申込み14組31人）</p> <p>内 容：食材選び、買い物、食育トーク・ディナー作り 他</p> | D-I, II, E-I |
| <p>3 相談業務</p> <p>施設を利用する団体がより充実した研修を行えるよう、利用団体への情報提供、活動プログラムの相談などを通して充実した宿泊体験を支援しました。</p> <p>(1) 体験学習説明会</p> <p>開催回数：6回（4月24日、5月29日、6月26日、1月31日、2月28日、3月13日）</p> <p>参加校数：80校</p> | D-I, II, E-I |

| 事業名（指定管理事業：研修センター） | 区分 |
|--|--------------|
| (2) 一般団体抽選会 開催回数：12回（毎月第2日曜日） 参加団体数：184団体 (3) 一般団体事前打ち合わせ会 開催回数：36回（毎月第1から3土曜日） 参加団体数：278団体 (4) 下見の対応 年間件数：104件 | |
| 4 備品貸出業務 | D-I, II, E-I |
| 施設の備品の貸し出しを通して、利用者の施設内における活動の充実を図りました。 今年度はメニューの多様化やアレルギー食などの要望が多かったため、電子レンジやオーブントースターを購入し、利用者ニーズに応じた厨房器具の充実を中心に図りました。 | |
| 5 野島ふれあいランド | D-I, II, E-I |
| 施設と研修センターのノウハウを提供し、遊びを中心に地域の青少年の育成と異年齢間の交流を促進しました。 開催回数：毎月1回（原則として第4土曜日）（全12回） 内 容：たなばた会、ミュージックベルコンサート、やきいも、もちつき 他 参加者数：553人 活動ボランティア：9人 合計：562人 | |
| 6 野島ボランティアスタッフ育成 | D-I, II, E-I |
| 野島の周辺環境や施設を活かした定期的な研修活動を行い、青少年育成・ボランティア活動について学び、ボランティア同士・また利用者に関わり合いを持つことで青少年への関心を高め、青少年活動が実践できるボランティアスタッフを育成しました。 (1) 野島ボランティアスタッフ 登録人数：23人 活動回数：36回 活動内容：主催事業補助、夏季ボランティア活動 他 (2) ボランティア説明会 開催回数：3回（6月6日、8日、13日） 会 場：横浜市野島青少年研修センター、横浜市青少年育成センター 他 内 容：センターの紹介、活動の紹介 参加者数：6人 (3) ボランティア研修会 開 催：6月28日（土）から29日（日） 1泊2日 会 場：横浜市野島青少年研修センター 内 容：活動理解、センタープログラムの体験、交流会 他 参加者数：3人 (4) インターンシップの受入【新規】 活動期間：7月から9月のうち各自14日間 受入者数：3人（大学生） | |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：研修センター） | 区分 |
|--|--------------|
| <p>7 バードウォッチングin野島2009（共催）</p> <p>金沢区野島海岸を訪れる「冬鳥の観察」を通じて、自然環境保護への興味と関心を高めました。また、この活動を通じて市民団体と地域の人々が交流し、地域活動に目を向けるきっかけを作りました。</p> <p>開催日：2月15日（日）</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園</p> <p>内容：冬鳥の観察会、絵手紙づくり</p> <p>参加者数：37人</p> <p>主催：バードウォッチングin野島実行委員会</p> | D-I, II, E-I |
| <p>8 オールクリーン野島ビーチ2008（共催）</p> <p>身近な自然を保全するため、野島を拠点に活動するボランティア・市民活動団体と協働で横浜市内に唯一残る自然の砂浜「野島海岸」を清掃しました。</p> <p>開催回数：4回（7月12日（土）、11月9日（日）、12月20日（日）、2月21日（土））</p> <p>会場：野島海岸</p> <p>内容：海岸清掃、海辺の生き物観察</p> <p>参加者数：336人</p> <p>主催：オールクリーン野島ビーチ実行委員会</p> | D-I, II, E-I |
| <p>9 金沢水の日実行委員会への参加・支援</p> <p>自然の水環境豊かな金沢区内の「平潟湾」周辺の水辺で活動する市民活動団体が集まり、金沢の豊かな水環境をより健全な姿で次世代に引き継ぐためのイベントを実施しました。</p> <p>開催日：10月26日（日）</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園 他</p> <p>内容：海岸清掃、エコマネー体験、クラフト、塩作り 他</p> <p>参加者数：300人（参加団体数：18団体）</p> <p>主催：金沢水の日実行委員会</p> | D-1 |
| <p>10 金沢区災害ボランティアネットワークへの参加・支援</p> <p>金沢区の地域拠点・災害時の拠点のひとつである研修センターという立場でネットワークに参加することで、災害時の研修センターのあり方を確認するとともに、地域施設としての働きをアピールしました。</p> <p>開催日：定例会 毎月第1金曜日</p> <p>会場：いきいきセンター金沢 他</p> <p>内容：講演会、救急法講習会、合同防災訓練、防災シミュレーション 他</p> | D-1 |
| <p>11 金沢区災害ボランティア講習会</p> <p>金沢区内の災害ボランティア組織の活性化と、研修センターにおける災害時の対応などの強化のための講習会を開催しました。</p> <p>開催日：9月28日（日）</p> <p>内容：災害時のボランティアセンターのシミュレーション</p> <p>参加者数：18人</p> | D-I |

| 事業名（指定管理事業：研修センター） | 区分 |
|---|-------------|
| 12 野島カヌー体験教室 | D-I, II E-I |
| <p>研修センター利用者に対し、野島の海浜を利用した自然体験プログラムとして、金沢スポーツクラブと共催でカヌー体験教室を実施しました。</p> <p>実施期間：4月から11月 37回 参加者数：342人</p> | |
| 13 厨房を使った日帰り事業 | D-I, II E-I |
| <p>横浜野島カリー、もちつき等、厨房を使用した日帰り事業を実施し、施設の利用促進を図りました。</p> <p>開催回数：9回（5月17日、7月3日、19日、20日、9月14日、10月31日、3月3日、6日、29日）</p> <p>参加者数：454人、9団体</p> | |
| 14 放課後児童育成事業と連携したキャンプ（自主事業） | A-I, II E-I |
| <p>放課後キッズクラブ等と協働で宿泊キャンプを行い、集団生活を通じて参加者同士のふれあいを深め、自立心・協調性を深めました。</p> <p>開催日：8月8日（桜井）、8月28日（太田）、11月17日（港南台第3） 2月13日（秋葉）、3月13日（太田）、3月21日（能見台）</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園 他</p> <p>内容：宿泊体験、キャンプファイア、野外プログラム 他</p> <p>参加者数：214人</p> | |
| 15 プログラム研究・開発事業 | D-I, II E-I |
| <p>施設環境やプログラムの内容充実、職員のスキルアップ向上などを図り、利用者の満足度の向上に努めました。</p> | |
| 16 野島自立支援プログラム「若者自立サポート事業」（新規） | B-I |
| <p>若者の自立支援に取り組む団体の宿泊を受け入れ、アウトドアやボランティア活動等のプログラムを提供し、若者の自立支援をサポートしました。</p> <p>(1) ユースポート横濱活動支援 4月26日 参加者：12人（スタッフ含む）</p> <p>(2) 相談センター宿泊体験支援 2月6日、7日 参加者：37人（スタッフ含む）</p> <p>(3) ハートフルスペース宿泊体験 11月27日、28日 参加者：98人（スタッフ含む）</p> <p>(4) 野島クリスマスキャンプ支援 12月13日、14日 参加者：143人（スタッフ含む）</p> <p>(5) K2インターナショナル宿泊体験 2月9日、10日 参加者：38人（スタッフ含む）</p> <p>(6) 相談センター宿泊体験支援 3月5日、6日 参加者：5人（スタッフ含む）</p> | |
| 17 ワンダーキャンプ（新規） | D-I, II E-I |
| <p>子どもを対象に、野外での自然観察等を通して科学知識の普及を進めるとともに、宿泊体験を行うことにより集団活動の機会を提供しました。また、事業をサポートするボランティアの育成を図りました。従来、科学館で実施していた「サイエンスキャンプ」を野島で実施し、「サイエンスキャンプin野島」として施設連携事業として実施しました。</p> | |
| 18 野島科学工房 | D-I, II E-I |
| <p>科学館等と連携し、研修センターの利用者へ対し、天文の素晴らしさや科学の不思議を普及するワークショップを実施しました。</p> <p>(1) サイエンスキャンプで自然観察会を実施 10月11日（土）</p> <p>(2) 大学生によるオール関東教育フェスタと連携し、科学館天文ボランティアがミニプラネタリウムを実施 3月7日（土）</p> | |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：研修センター） | 区分 |
|--|--------------|
| 19 運営の検証と改善 | D-I, II, E-I |
| <p>研修センター利用者に対してアンケート調査を実施し、その結果をサービスの向上や設備の改善に反映しました。</p> <p>(1) 施設利用アンケート（センターを利用して目的は達成されたか？） 実施期間：5月から3月 回答数：296団体（回収率89.7%） 集計結果：達成率82.8%</p> <p>(2) 横濱野島カリーアンケート 実施期間：5月から11月 回答数：25団体（回収率64.8%） 集計結果：満足度85.7%</p> <p>(3) 親子クッキングキャンプアンケート 実施期間：2月28日から3月1日 回答数：9組（回収率100%） 集計結果：満足度：100%</p> | |
| 20 その他の共催事業（自主事業） | D-I, II, E-I |
| <p>野島自然観察探“屍”隊をはじめ、関係団体と共催して事業を実施しました。</p> <p>(1) 横浜市立大学医学部現代G Pプロジェクト支援 企画営業課と連携 開催日：6月21日（土） 会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園 他 内容：コミュニケーション研修、危険予知トレーニング、野外炊事実習 参加者数：23人</p> <p>(2) 野島自然観察探“屍”隊支援 通年（事務局支援、プログラム支援）</p> <p>(3) オール関東教育フェスタ支援 3月6日から8日（プログラム企画、活動支援）</p> | |

4 横浜こども科学館

| 事業名（指定管理事業：科学館） | 区分 |
|--|--------------|
| 1 展示物の提供、維持、開発、改良 | D-I, II, E-I |
| <p>常設展示物(200点余)の多くは10年から20年を過ぎているため、日々のきめ細かいメンテナンスや性能をより高めていくための研究を行い性能の維持・向上に努めました。</p> <p style="text-align: right;">(年間入館者数：293,911人)</p> <p>(1) 展示室の提供、維持 展示案内、展示物の機能維持、定期点検、日常点検保守 図書・ビデオソフト収集・管理・提供、情報端末メニュー整備・提供</p> <p>(2) 展示物の開発・改良 展示物の操作性・安全性の向上、展示室の運営形態・展示手法の検討 展示物の改良・更新：23点</p> | |

| 事業名（指定管理事業：科学館） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>2 宇宙劇場の管理運営</p> <p>プラネタリウム番組内容の充実を図り、入館者・入場者の増加に取り組みました。また、宇宙劇場の保守管理を行い、プラネタリウムの安定した投影に努めました。</p> <p>（入館者の約59%が、プラネタリウム番組をご覧になりました。年間入場者数：173,188人）</p> <p>(1) 一般投影番組の投影、及び制作</p> <p>①「いま、地球がアツい！」の投影 投影回数：18回 入場者数：1,134人</p> <p>②「銀河鉄道の夜」の投影 投影回数：844回 入場者数：55,743人</p> <p>(2) ちびっ子プラネタリウムの投影、及び制作</p> <p>①「かいけつゾロリ〜ちきゅうをめざせ!編」の投影 投影回数：17回 入場者数：1,493人</p> <p>②「あつまれ!ポケモンプラネットセンター」の投影 投影回数：744回 入場者数：88,903人</p> <p>(3) 学習用プラネタリウム番組の投影 投影回数：169回 入場者数：25,174人</p> <p>(4) 夜間延長投影 投影回数：26回 入場者数：741人</p> <p>(5) 横浜開港150周年・開館25周年・世界天文年記念番組「横浜から宇宙へ」の制作</p> | D-I, II, E-I |
| <p>3 夏休み特別展</p> <p>夏休み期間中に、身体の健康に不可欠な運動をテーマとし楽しく体を動かしながら体力をアップする科学的な方法を身につける「サイエンス・ジム」を開催しました。</p> <p>(1) 夏休み特別展「サイエンス・ジム ー親子でチャレンジ!体力アップ!ー」</p> <p>内 容：ホバーサッカー迷路、ロッククライミング など 20種類以上</p> <p>実施期間：7月19日（土）から8月31日（日）44日間</p> <p>期間中入館者：76,368人</p> <p>(2) 付帯イベント「トランポリン・アクロバットショウ」</p> <p>開催日：7月28日、29日</p> <p>参加者数：400人</p> | D-I, II, E-I |
| <p>4 夏休み・年末年始特別プログラム</p> <p>来館者に科学の楽しさ、おもしろさを体験し、興味を持ってもらえるような科学実験ショウの開発・改良を行い、来館者に提供しました。また、子どもの長期休みに対応したイベントを開催しPRしたことで来館者増に繋がりました。</p> <p>(1) 夏休み特別プログラム 「真夏のかがかん座」</p> <p>内 容：5階キャプテンシアターで、自由に観覧できる実験ショウ、実験ショウと工作の融合、大道芸と実験ショウの融合など、見学者と一体になった楽しい参加型ステージをバラエティ豊かに毎日開催</p> <p>実施期間：8月1日（金）から8月31日（日）</p> <p>参加者数：7,716人</p> <p>(2) 年末特別プログラム「クリスマス・サイエンスショウ 蜜ろうのキャンドル作り」</p> <p>内 容：5階キャプテンシアターで、ろうそくについてのミニ実験ショウ（10分）とキャンドル作りを開催</p> <p>実施期間：12月20日（土）から12月24日（水）</p> <p>参加者数：265人</p> | D-I, II, E-I |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：科学館） | 区分 |
|--|--------------|
| <p>5 科学実験ショウ</p> <p>科学の楽しさ、おもしろさをライブで体験できるよう、5階キャプテンシアターで毎月演目を変えてサイエンスショウを、また2階スペースラボでは、いろいろなテーマのミニ実験ショウを実施しました。</p> <p>(1)「科学実験ショウ・サイエンスショウ」（全12演目）</p> <p>内 容：参加性を重視した体験型科学実験ショウ 「だるまおとし」「冷たいはなし」「ブーメラン」「あんなカサこんなカサ」 「しゃぼん玉Ⅱ」「たねもしかけも」「空気でポンッ」「たまごは不思議」 「おとであそぼ」「ロケット☆はっしゃ!」「しゃぼん玉」「宙がえり」</p> <p>実施期間：4月1日（火）から3月31日（火） 583回開催</p> <p>参加者数：18,124人</p> <p>(2)「科学実験ショウ・ラボミニ実験」</p> <p>内 容：身近なテーマと実験用具で行うミニ実験 「ハイテクじゃんけん」「シャボンまく」「魔法のいろみず」「くっつけ磁石」 「音と波」「ビデオマイクロスコープ」「おもしろ静電気」</p> <p>実施期間：4月1日（火）から3月31日（火） 1,068回開催</p> <p>参加者数：16,020人</p> | D-I, II, E-I |
| <p>6 企画展</p> <p>特別展示室にて年間を通して企画展を実施しました。常設展示とは異なるテーマや展示形態をとり、様々な角度から科学のふしぎ、おもしろさに触れてもらう機会を提供しました。</p> <p>(1)「空気で遊ぼう—エアパークスペシャル—」</p> <p>内 容：「空気スタジオ」「じっけんテーブル・空気でためそう」など、空気の存在が確認できる実験や展示物</p> <p>実施時期：（3月20日（木））から6月15日（日）</p> <p>開催日数：81日間（うち平成20年度は69日間開催）</p> <p>期間中入館者：73,907人（うち平成20年度の入館者：60,481人）</p> <p>※ 付帯イベント</p> <p>「回れ！かざぐるま」 参加者数：91人 「モコモコオバケを作ろう!」 参加者数：325人 「みんなで作ろう！こいのぼり」 参加者数：154人 「ふき玉水族館」 参加者数：440人</p> <p>(2)‘カオスマス’とサイエンティフィックアートの世界展～科学と芸術の出会い</p> <p>内 容：NPO法人 科学芸術学際研究所(ISTA)の芸術家 富岡雅寛氏の作品18点を中心としたサイエンスアート展示と科学ワークショップ</p> <p>実施期間：9月7日（日）から23日（火祝） 16日開催</p> <p>期間中入館者：13,829人 ※科学ワークショップ 156人（4日間）</p> <p>(3)「マグネット あら？カルト」</p> <p>内 容：磁石の不思議を、基本的なものから応用技術まで楽しく体験 実験チューボー、磁石の木を作ろう、砂鉄ガーデン 他</p> <p>実施時期：10月4日（土）から11月30日（日） 56日開催</p> <p>期間中入館者：38,892人 ※ワークショップ4回 38人、付帯イベント実績25回 359人</p> | D-I, II, E-I |

| 事業名（指定管理事業：科学館） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>(4)「台風がやってきた！」</p> <p>内 容：操作体験型の8つの実験装置群により、台風の科学を中心に水の循環、及び気象について学習する巡回展。気象予報士が説明や解説を行いました。</p> <p>実施期間：12月20日（土）から3月14日（土） 85日開催</p> <p>期間中入館者：50,287人</p> <p>(5)「魔法の板・カプラ〜つんで、つんで、なにつくる？」</p> <p>内 容：オランダ語で「魔法の板」と呼ばれる「カプラ」15,000個を会場に広げて、自由に造形を楽しむ機会を提供しました。</p> <p>実施時期：3月20日（祝金）から（平成21年6月14日（日））平成20年度は11日間開催</p> <p>期間中入館者：3月20日から3月31日 14,175人</p> | |
| <p>7 ゴールデンウィーク・夏休みイベント</p> | D-I, II, E-I |
| <p>来館者が多いゴールデンウィークと夏休みに、幅広い年齢層に対応したワークショップ形式の参加型のイベント「サイエンスバザール」を実施し、楽しい科学館を演出しました。</p> <p>(1)「スチロールコップメダルを作ろう」</p> <p>開催日数：5日（4月29日（火祝）、5月3日（土）から6日（火祝））参加者数：919人</p> <p>(2)「スライムを作ろう」</p> <p>開催日数：6日（8月19日（火）から8月24日（日））参加者数：2,895人</p> | |
| <p>8 コンピュータ教室</p> | D-I, II, E-I |
| <p>コンピュータの正しい知識や基本操作を学ぶ親子対象の教室、小学生を対象とし、プログラミング技法を楽しく学ぶための教室などを開催しました。</p> <p>(1) 虫型ロボットでプログラミングに挑戦 計6回 参加者数：49人</p> <p>(2) プログラミング入門迷路パズルで遊ぼう 計12回 参加者数：99人</p> <p>(3) はじめての親子パソコン教室 計12回 参加者数：58組116人</p> | |
| <p>9 実験工作教室</p> | D-I, II, E-I |
| <p>もの作り体験を通じて、道具の使い方などの工作の基本と科学知識を習得しました。</p> <p>開催回数：13回 参加者数：258人</p> <p>内 容：「レモン電池と備長炭電池」「水をきれいにするおもしろ実験」「すもうロボット」「ソーラーカー」「スチレンヒコーキ」「オーディオ教室」 他</p> | |
| <p>10 体験スタジオ</p> | D-I, II, E-I |
| <p>1時間程度でできる簡単工作や科学遊びを通して科学体験できる場を提供しました。参加希望の多い小学校低学年からを対象とし、気軽に参加できるように当日受付など対応を工夫しました。</p> <p>(1) エコーメガホンを作ろう 6月22日、29日 2日間 152人</p> <p>(2) 万華鏡を作ろう 7月24日から27日 4日間 1,177人</p> <p>(3) バードコールを作ろう 8月30日から31日 2日間 392人</p> <p>(4) パラモーション 9月13日から15日 3日間 154人</p> <p>(5) マーブリング染め 10月11日から13日 3日間 99人</p> <p>(6) ばねっこきつき 11月22日から24日、30日 4日間 166人</p> <p>(7) スポンジくまさん 1月4日から7日 4日間 267人</p> <p>(8) マジック貯金箱 2月7日から8日、11日 3日間 160人</p> <p>(9) ガチャポン工作 3月8日、15日 2日間 120人</p> | |

協会の事業

| 事業名（指定管理事業：科学館） | 区分 |
|---|--------------|
| <p>11 天文教室</p> <p>天体望遠鏡を自分で製作し、その仕組みや構造を理解する教室の実施や天体を見る観望会を実施し、天文や宇宙に親しむ機会を提供しました。また、放課後児童育成団体を対象に昼の特別投影を実施しました。また事業実施を通じたボランティアの育成に努めました。</p> <p>(1) 天文教室</p> <p>① 望遠鏡工作教室 : 4回 129人</p> <p>② 観望会 : 3回 75人</p> <p>③ 臨時観望会 : 7回 234人</p> <p>(2) 放課後児童プラネタリウム投影 投影回数: 11回 入場者数: 438人 (21団体)</p> <p>(3) 天文ボランティア研修</p> <p>内 容: 全体研修、専門研修</p> <p>実施時期: 10月から3月 全体研修1回、専門研修6回</p> <p>参加者数: 全体研修 17人 専門研修 53人</p> <p>※専門研修の最終回は野島青少年研修センターでの出前観望会を実施しました。</p> | D-I, II, E-I |
| <p>12 宇宙劇場特別事業（自主事業、新規）</p> <p>宇宙劇場を利用して、コンサートや講演会等を実施し、自主財源の確保に努めました。</p> <p>特別講演会、七夕投影、クリスマスコンサート等 年6回開催</p> <p>(1) KAGAYAトークショー 6月14日(土) 237人</p> <p>(2) 七夕特別投影『お星さま おねがい!』 7月5日(土)、6日(日) 243人</p> <p>(3) お月見コンサート(フルート二重奏) 9月14日(日) 169人</p> <p>(4) 天文講演会「かぐやが見た月の世界」 11月15日(土) 171人</p> <p>(5) 星空のXmasコンサート(弦楽四重奏の生演奏) 12月23日(火祝) 240人</p> | D-I, II, E-I |
| <p>13 サイエンスキャンプin野島</p> <p>青少年に野外での自然観察等を通して科学知識の普及を進めるとともに、宿泊体験を通じた集団活動の機会を提供するため、野島青少年研修センターと連携して実施しました。</p> <p>内 容: 科学実験、ハイキング、天体観測、科学工作、カヌー体験 他</p> <p>実施時期: 9月21日(日)から10月13日(月祝) 宿泊 10月11日から13日(2泊3日)</p> <p>参加者数: 40人(小学生31人、中学生9人) ボランティア: 12人</p> | D-I, II, E-I |
| <p>14 地域連携事業「洋光台サイエンスクラブ」</p> <p>地域や市民活動団体やボランティアと連携し、近隣地域の子どもたちを対象とした様々な教室や催しを実施し、科学への興味関心の促進を図りました。</p> <p>内 容: 実験工作教室、環境自然教室、池づくり体験教室、電波教室 他</p> <p>実施時期: 通年 毎月2から3回、土曜日を中心に実施</p> <p>参加者数: 535人 応募総数 966人</p> | D-I |
| <p>15 広報出版事業</p> <p>科学情報紙や科学館事業案内情報等を発行して、青少年の科学への興味を呼び起こすとともに科学館のPRを行いました。</p> <p>(1) 科学情報紙「みみよりサイエンス」の発行 年4回 10,000部/回</p> <p>(2) 事業案内ポスター、チラシの発行 ポスター 5,280部 チラシ 46,000部</p> <p>(3) ホームページによる情報提供 訪問総数458,063件</p> | D-I, II, E-I |

| 事業名（指定管理事業：科学館） | 区分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|-----------|------|--------------|-----------|-----|------------|-----------|-----|------------|-----------|------|-------------|-----------|-----|------------------|-----------|------|--------------|
| <p>16 科学体験活動推進スタッフ養成研修</p> <p>科学知識、技術を持った人材を発掘し、指導者養成研修を通して科学体験活動推進スタッフを養成しました。</p> <p>(1) 科学体験活動インストラクター養成研修<NPO法人おもしろ科学たんけん工房と共催> 内 容：オリエンテーション、おもしろ科学体験塾の現場実習 他 実施時期：6月から11月 同一内容で3講座実施 参加者数：47人</p> <p>(2) 科学館ボランティア（通年）</p> <table border="0" data-bbox="245 510 1161 741"> <tr> <td>① サイエンスキャンプボランティア</td> <td>活動日数：52日間</td> <td>254人</td> </tr> <tr> <td>② ワゴンワークショップ</td> <td>活動日数：15日間</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>③ 事業ボランティア</td> <td>活動日数：45日間</td> <td>86人</td> </tr> <tr> <td>④ 天文ボランティア</td> <td>活動日数：25日間</td> <td>134人</td> </tr> <tr> <td>⑤ 展示室ボランティア</td> <td>活動日数：18日間</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>⑥ サイエンスクラブボランティア</td> <td>活動日数：13日間</td> <td>281人</td> </tr> </table> | ① サイエンスキャンプボランティア | 活動日数：52日間 | 254人 | ② ワゴンワークショップ | 活動日数：15日間 | 16人 | ③ 事業ボランティア | 活動日数：45日間 | 86人 | ④ 天文ボランティア | 活動日数：25日間 | 134人 | ⑤ 展示室ボランティア | 活動日数：18日間 | 18人 | ⑥ サイエンスクラブボランティア | 活動日数：13日間 | 281人 | D-I, II, E-I |
| ① サイエンスキャンプボランティア | 活動日数：52日間 | 254人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② ワゴンワークショップ | 活動日数：15日間 | 16人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 事業ボランティア | 活動日数：45日間 | 86人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 天文ボランティア | 活動日数：25日間 | 134人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 展示室ボランティア | 活動日数：18日間 | 18人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ サイエンスクラブボランティア | 活動日数：13日間 | 281人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>17 指定管理付帯事業</p> <p>科学館の売店・利用者用駐車場、及び喫茶室の管理運営を、利用者の利便・サービス向上ならびに自主財源確保を目的として行いました。</p> | F-I | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>18 学芸員実習</p> <p>各大学の学芸員養成課程に必要な施設実習の要望に答え実施しました。学芸員・科学館の理解者を育成するとともに、実技を通じて科学の普及・啓発活動を行いました。</p> <p>内 容：座学、実技A/B、まとめ 評価 実施時期：7月3日から4日(座学)、8月3日から10日(実技A)、8月17日から24日(実技B) 実 習 生：12人(実技A：5人、実技B：7人)</p> | D-I, II, E-I | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>19 運営の検証と改善（来館者アンケート、公募モニターによる評価制度）</p> <p>来館者アンケート調査では来館者のニーズや動向の意識調査を行いました。またモニター評価制度を取り、公募モニターにより事業や運営についての評価・検証を行い、事業の改善強化を図りました。</p> <p>(1) アンケート調査 来館者の要望や傾向を把握し、科学館運営に役立てるため、入館者の意識調査を実施しました。</p> <p>(2) 団体面接調査 来館した団体の中から、小学校(30)、放課後キッズクラブ(16)、幼稚園・保育園(4)、青少年団体(6)の計56団体から、展示・番組、施設の改善提案などをいただきました。</p> | D-I, II, E-I | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>20 協働事業の実施</p> <p>企業や他団体との協働事業により、多くの青少年に科学体験の機会を提供しました。</p> <p>(1) ㈱横浜銀行「はまぎんサイエンスキッズ」 開催日：8月26日, 27日, 3月26日から28日 5日間 (5回) 参加者：93人</p> <p>(2) リコー㈱「コピー機になってみよう！」 開催日：11月23日, 24日, 12月7日 3日間 (25回) 参加者：359人</p> <p>(3) 東京電力㈱「第13回サイエンスグランプリ神奈川地区入賞作品」 開催日：7月24日から7月27日 4日間 参加者：1,861人</p> <p>(4) 日本電子㈱ 体験！電子顕微鏡ワークショップ『見るみるミクロ』 開催日：11月9日 参加者：23組44人</p> <p>(5) ㈱ウェザーマップ『晴家のお天気ミニライブ』 開催日：5月3日, 7月23日, 1月12日 3日間 参加者：250人</p> <p>(6) 「めざせ！マジシャンⅢ」 開催日：7月6日 参加者：126人</p> | D-I, II, E-I | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

みんな「取り組む」

150万本植樹行動



暮らしに緑を 街に緑を!

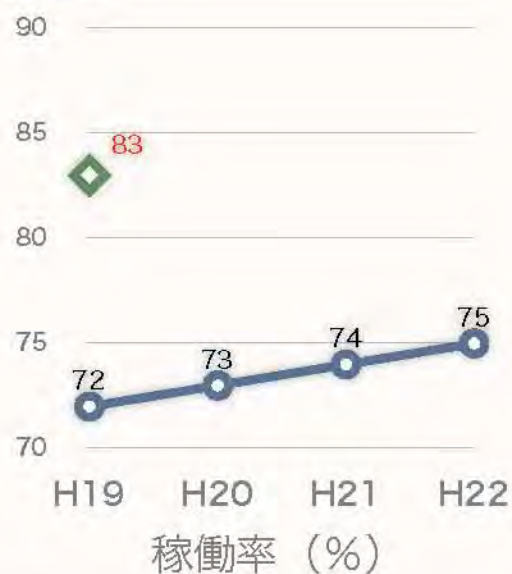
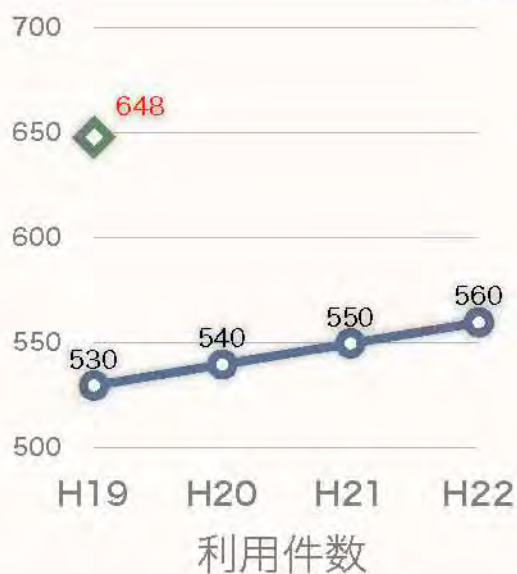
© City of Yokohama

I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項1】

指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加を図ります。
また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加を図ります。

野島青少年研修センター



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項1】

指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加を図ります。
また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加を図ります。

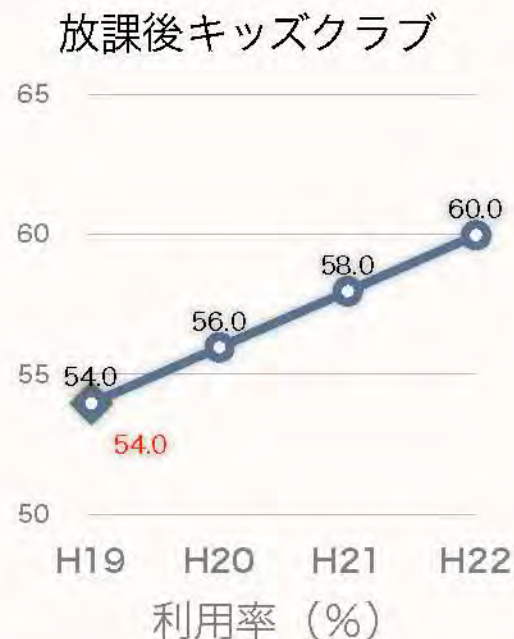
青少年育成センター



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項1】

指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加を図ります。
また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加を図ります。



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項2】

青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上（コーディネート件数63%以上）、青少年指導者等の講座への参加者数を380人以上とします。

青少年の自立支援事業



青少年指導者等の活動支援

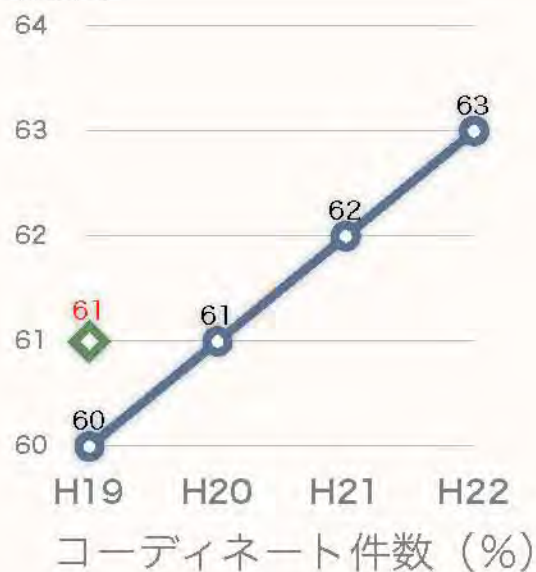


I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項2】

青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上（コーディネート件数63%以上）、青少年指導者等の講座への参加者数を380人以上とします。

青少年の体験活動の充実



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項3】

施設利用者及び事業参加者の満足度（目的達成率）を86%以上とします。

施設利用者及び事業参加者の満足度（目標達成率）



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項4】

ホームページへのアクセス数を130（指数）以上とします。また、利用者の声の一層の反映を図ります。

【協約事項4の平成19年度実績】

青少年育成に関する情報提供を充実し、市民との協働や参画により青少年育成を推進するため、情報を受け取る側のニーズを反映した情報提供方法やガイドライン作成を行う職員プロジェクトを設置し、7月に情報提供ガイドラインおよび運用ルールを策定しました。

また、平成19年度のホームページへのアクセス数を100とした目標指標を定めているため、ホームページのコンテンツごとのアクセス数を把握しました。

I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項5】

自主財源比率を30%以上とします。



平成19年度自主財源比率

$$(A) \text{ 737,180,548} = \text{協会の総収入} \text{ 969,759,748} - \text{キッズ受託収入} \text{ 29,230,000} - \text{キッズ補助金} \text{ 203,349,200}$$

$$(B) \text{ 221,394,548} = (A) \text{ 737,180,548} - \text{指定管理料} \text{ 438,069,000} - \text{事務局補助金} \text{ 77,717,000}$$

$$\text{自主財源比率 } 0.30 = (B) \text{ 221,394,548} / (A) \text{ 737,180,548}$$

I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項6】

職員の意欲を引き出し、事業の充実や職員のスキルアップを図ることのできる新たな組織・人事給与制度を導入します。

【協約事項6の平成19年度実績】

組織・人事給与検討委員会の提言をもとに組織改革のための準備を行いました。

給与制度に関しては、様々な角度から検討をし、人事考課の一つとなる管理職へのMBOを試行的に実施しました。